

類纂 舊典

皇位繼承篇

卷九 卷十

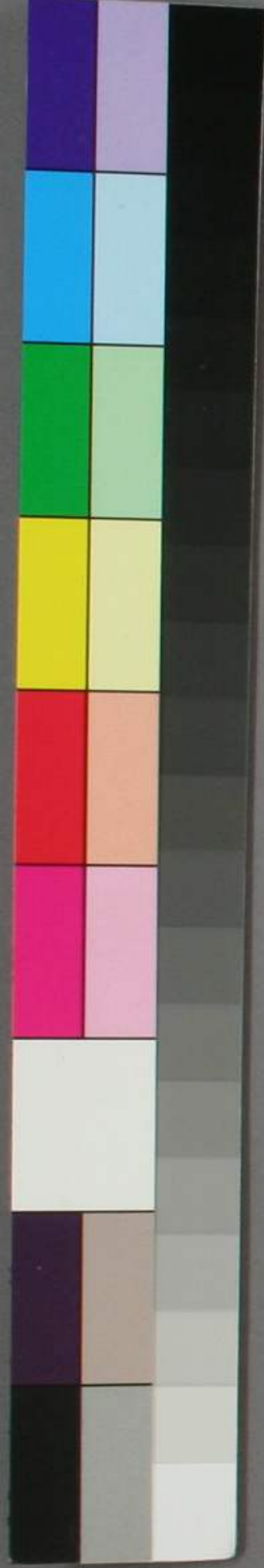
五

和装本

76

4610

5



門 76
4610
卷 5

皇位繼承篇卷九



議官 福羽美靜 檢閱

少書記官 橫山由清

編纂

大書記生 黒川真頼

讓位異例

天皇崩すト雖ヘドモ仍御存在ノ議ヲ以テ皇位
ヲ讓シ事

○後一條天皇

日本紀略 後一條天皇云長元九年四月六日上東門院
ノ御母ナリ天皇不豫也云云十七日戌刻天皇落飾崩
于清涼殿春秋廿九在位廿年去三月以來子刻諸卿近衛以璽
劍奉皇太子○皇太子ハ敦良親王ニ於昭陽舍依有遺詔暫秘
喪事以如在之儀今日讓位於皇太弟

皇位繼承篇 卷之九

榮花物語さきまわびりと うち皇〇後一條天 能事なりやみ日を

纏つむりおのりせ終て四月十五日をのりつむり日ごとくよそをつむせ

終ふ女院中宮深ふくられたるおのりつむす云つむひおのり月十

七日能夕ゆふううこせさせ終ひぬれば云位なごのり能事ありま

ハ変せくいいいううれむおのりぬのり希まふまなりまら

せ終ひてり〇後一條天皇崩ず而シテ喪ヲ秘スルコト數

テ此ノ條ト天皇疾病ニ因テ皇位ヲ讓ルト為ス、因

讓ニ事ノ條トニ掲ゲ以テ類ヲ分ツ

天皇時變ニ由テ皇位ヲ讓シ事

天下時變アレバ世態モ亦從テ變ズ、天皇為ニ

皇位ヲ避ケコレヲ後主ニ傳ヘ以テ時勢ニ隨

フ、後世コレヲ以テ法ト為スカラザルナリ

〇皇極天皇

皇極天皇紀 四年六月丁酉朔甲辰中大兄〇天智天 密謂倉

山田麻呂臣曰三韓進調之日必將使卿讀唱其表遂陳欲斬入

鹿之謀麻呂臣奉許焉戊申天皇御大極殿古人大兄〇天智天

リ侍焉中臣鎌子連知蘇我入鹿臣為人多疑晝夜持劔而教能

優方便令解入鹿臣笑而解劔入侍于座倉山田麻呂臣進而讀

唱三韓表文於是中大兄戒衛門府一時俱錄十二通門勿使往

來召聚衛門府於一所將給祿時中大兄即自執長槍隱於殿側

中臣鎌子連等持弓矢而為助衛使海犬養連勝麻呂授箱中兩

劔於佐伯連子麻呂與葛城稚犬養連網田曰努力急應須斬子

麻呂等以水送飯恐而反吐中臣鎌子連噴而使勵倉山田麻呂

臣恐唱表文將盡而子麻呂等不來流汗沃身亂聲動手鞍作臣

〇入鹿イノカ 恠而問曰何故掉戰山田麻呂對曰恐近天皇不覺流汗

中大兄見子麻呂等畏入鹿威便旋不進曰咄嗟即共子麻呂等

出其不意以劔傷割入鹿頭肩入鹿驚起子麻呂運手揮劔傷其

一脚入鹿轉就御座叩頭曰當居嗣位天子之子也臣不知罪乞垂
審察天皇大驚詔中大兄曰不知所作有何事耶中大兄伏地奏
曰鞍作盡滅天宗將傾日位豈以天孫代鞍作耶天皇即起入於
殿中佐伯連子麻呂推犬養連網田斬入鹿臣是日雨下潦水溢
庭以席障子覆鞍作屍古人大兄見走入私宮謂於人曰韓人中
大兄皇子及中臣錄子等ヲイフ殺鞍作臣吾心痛矣即入卧内杜門不出中大
兄即入法興寺為城而備凡諸皇子諸王諸卿大夫臣連伴造國
造悉皆隨侍使人賜鞍作臣屍於大臣蝦夷於是漢直等總聚眷
屬擐甲持兵助大臣設軍陣中大兄使將軍巨勢德陀臣以天地
開闢君臣始有說於賊黨令知所起於是高向臣國押謂漢直等
曰吾等由君太郎○入鹿應當被戮大臣○蝦夷亦於今日明日
立俟其誅決矣然則為誰空戰盡被刑乎言畢解劍投弓捨此而
去賊徒亦隨散走己酉蘇我臣蝦夷等臨誅悉燒天皇記國記珍

寶船史惠尺即疾取所燒國記而奉中大兄是日蘇我蝦夷及鞍
作屍許葬於墓復許哭泣云庚戌讓位於輕皇子○輕皇子ハ
立中大兄為皇太子○孝德天皇皇位ヲ繼承スルヲト委シ
見ルベシリ立中大兄為皇太子ハ卷三皇子直ニ皇位ヲ繼承スルノ

事 天皇事ヲ舉グルニ便ナラントシテ皇位ヲ讓シ

海内皇命ニ抗スル者アレバ天皇師ヲ出シテ
之ヲ討ツ安ク天皇事ヲ舉グルニ便ナラント
シテ皇位ヲ避クルノ理アラシヤ此ノ如キハ
後世以テ法ト為スベカラザルナリ

○順德天皇

百練鈔 承久三年四月二日被立三社奉幣使宣命趣世人成
不審歟○後鳥羽天皇順德天皇兵ヲ舉テ北條八日内裏己下

御灌佛也及晚洛中物念也重事已相定云云廿日今日有御讓位事申刻大臣以下參入天皇大皇太子懷成即仲恭天皇十リハ御開院被渡劍璽新攝政道家已下諸卿相從之

神皇正統記下卷 承久三年春於此より上皇後鳥羽天お

わしめしつことありりれば俄に讓國し給ふ順徳所為を

うらめそな裁のことをもひつゆの内よせさせ給ひん所をり

こころや新主懷成親王ニテ又讓位ありし云

六代勝事記 同云年承久三四月廿日皇上順徳天位を

太子太子ハ懷成親王ニまゆり給ひぬ五月十六日又太上天

皇後鳥羽天天寶はむくまひとく兵をめぐりて洛陽のや後

廷尉光孝を討せしめ追討使をわらちつのを云天皇御

天皇ト俱ニ共ヲ舉テ北條義時ヲ討タシ父後鳥羽

ト欲ス故ニ皇位ヲ讓シコト知ルベシ

天皇上皇ノ意ニ從テ皇位ヲ讓シ事

天皇皇位ヲ避クルノ意ナシ而ルニ太上天皇

諷諭シテ之ヲ避ケシム天皇因テ上皇ノ意ニ

從テ皇位ヲ新主ニ讓ルトイヘドモ而レドモ

意釋然タラス故ニ當時即兵ヲ舉グルニ至ル

アリ或ハ數世ヲ經テ後竟ニ兵革ニ及ブアリ

此條ヤ後世必法ト為スベカラザルナリ

崇徳天皇 六條天皇 土御門天皇 後深草天皇

○崇徳天皇

愚管鈔卷四 あうくは沙中阿きく崇徳院の位にお

ち一傳しけるふ鳥羽院崇徳天皇を長実中納言が娘を

降し最尊と思召し始ふは三位せさせておをけるおん

腹ふをのここと生れさせ給へるを赤宮ふとて崇徳の后ふ

は法性寺教娘系なりける皇赤の院ありその御子結

よしと云 云生定あて、讓位ハ登しと申されれば、崇徳院ハさるべしとて、永治元年十二月、小清讓位有る事、保延五年八月、小東宮、小を立せ給ふに、皇宣命、小皇太子とも有んむらんと、思召ける事、皇太子、弟、皇女、かきせられけり時こそ、いふふと、又、崇徳院の清意、趣ふらり、皇女なり

續世繼物語卷三

山男

保延五年、小や、倚り、らん、つちのとのむつと、

年五月十八日、よふな、けうなる玉のを、給とらや、○體仁親王ニテ即近衛

天皇、ナリ、生れさせ給ひぬれば、云、日子、そへて、めづり、なる、ちと

清、清の、あなる、あつけ、も、い、の、や、う、ま、ご、や、う、ふ、この、ま、あ、も

位、あ、も、と、お、ほ、せ、ら、も、后、ち、ら、ふ、こ、こ、あ、あ、ま、お、は、ま、ま、を

さ、越、べき、な、も、ま、あ、り、ほ、め、は、ほ、ま、ふ、當、代、崇徳院、給

清、子、ふ、な、り、ま、り、給、ふ、こ、と、い、で、ま、さ、み、あ、月、の、廿、六、日、皇、子

内、へ、いら、せ、給、ふ、云、同、七、年、○保延七年ニテ、十二、月、七、日、即永治元年ナリ

保元物語上卷 保延五年五月十八日美福門院御腹ニ皇子

御誕生アリシカバ、上皇○鳥羽天皇、殊ニ悦思召テ、何シカ、春宮

ニ立給フ○春宮ニ立シハ、永治元年十二月七日三歳ニテ、御

即位アリ、依テ、先帝○崇徳天皇、ヲ、バ、新院ト、ゾ、申ケル、先帝コト

ナル、御恙モ、渡ラセ給ハ、ヌニ、押オロシ給ヒケルコソ、淺マシ

ケレ、依テ、一院○鳥羽天皇、新院○崇徳天皇、父子ノ、御中、快カラズ

ト、ゾ、聞エシ、誠ニ、御心ナラズ、御位ヲ、サラセ給ヘリ○崇徳天皇

ニ、テ、事情コノ、文、シ、事、情、ル、ベシ

増鏡卷一おどろ、永治、給、む、り、鳥羽の、法、皇、給、崇徳院の、清、心

も、ゆ、り、ぬ、お、ろ、り、夢、を、て、近、清、院、を、急、な、り、た、ま、ひ、し、時

を、清、の、皇、ヲ、イ、フ、崇徳天皇、い、と、ら、あ、ら、せ、給、ひ、て、その、お、ふ、た、り、子

皇位繼承編 卷之九

まゝ勅使をさしづきしめて奉らせ給ひて、内侍所劔璽など
をも渡し給ひ給へりしにぞうし、さてその侍らむとほり給
を急し給へりて、保元のまじりもむきりや給へりしを云

〇六條天皇

續世繼物語卷三花どの 永弼元年六月廿五日位ふつがせ給ふ

〇六條天皇ノ即位ヲイフ 淳年二よをうもし給ふと三年みやおほし

まをさむ、一院〇後白河天皇ニテ六條天皇ノ御祖父ナリ おほしめしおきつること

あし、とうく〇高倉天皇ニ皇位ヲ讓 東宮ナルベシ小位を讓里なり給へ

イフをさなくおほしおほし太上天皇と申もいとやんとおほし

淳年二よく位ふつがせ給ふと是やそぞめしおほし

まはらむ

玉海 仁安三年二月十六日亥刻許、或人告送云来十九日可

有讓位事、於閑院可有其事云云十七日未刻許參東宮〇東宮ハ憲仁

親王ニテ即高相合女房談讓位事、昨日俄出來事云云上皇〇後

倉天皇ナリ 有思召事御出家 且、因之令急給、十九日今日御讓位

事云云子刺劍璽渡御〇後白河上皇ノ出家ノ前ニ高倉天皇

讓位ヲ急ガシメタルニテ、六條天皇ノ意ヨリ出シ讓位ニ

非ズ、讓位ノ歲天皇御年五歲ナリ、因テ以テ異例ト為ス

〇土御門天皇

增鏡卷一おどろ 承元二年みなりぬ、十二月廿五日二の宮〇後

天皇ノ二宮守成親モ 淳冠し給ふ、後醍醐院法皇讓位なり、らの

らに院〇後鳥羽天 限なり、あましき物ふ思ひ付元させ給

へきは、ふあきまらを盡し、いりしうりて、うづきをり

給ふ事なるめなり、つひも同日四年十一月小治位ふつが

奉り給ふ、とよみ給〇土御門天 皇ヲイフ、今年らそ十六みならせ給へ

バ、いしごえあ、いふるなまき清さのまふ、かふるをいとあ、あられ

とおがされ、永治のむの、鳥羽の法皇崇徳院の侍心も

テ即龜山 十一歳で譲元後一終ふ、所いくな恒仁ときらぬ世の
天皇ナリ 中やうく、保のなごさゆひる事あれば、所の 皇ヲイフ
あの心ほそりおぼされて、よぬ終まらうしつちなる物治
終つりごみ、内侍所の所拜終敷をうごへられれば、五千七十
四日なりけるをうけ、そのまをう、辯の内侍

子代とりけ、五歳とみく七十ふある日かぞを神のわをれど、
かこく十一月廿六日おまをさせ終あり、宮終らうきとて、
おふぬうちをききて物なうく見たりねど、伊勢終どあひも
思をぬちききを、といひらんあるとこへ今終らうしつて心ほそ
くおちひ、うへ 皇ヲイフ もおぼしうけ終つれど剣壺
のいふさせ終らると常終り幸ふ所此をはなれざりつる
ならむ、十三年終終なきをいわうも、終いと何をしめ忍び
がら終らうきをうかすも、中をうかすも、中をうかすも、中をうかすも

けり ○後深草天皇ノ皇位ヲ龜山天皇ニ讓シハ、御父後醍醐
天皇ノ意ニ從ヒシコト、増鏡ヲ見テ知ルベシ因テ此ノ
載スニ

讓位非例

天皇權臣ノ奏スルニ從テ皇位ヲ讓シ事

後宇多天皇以來數世權臣跋扈ス、天皇皇位ヲ

新主ニ傳フルニ必、其ノ意ニ從ハザルヲ得ズ、

是ニ由テコレヲ觀レバ、天皇ヲシテ徒ニ神器

ヲ擁セシムルナリ、後世必コレヲ以テ法ト為

スベカラザルナリ

後宇多天皇 後伏見天皇 花園天皇

○後宇多天皇

正應天皇御記 弘安十年十月廿一日今日讓位也 ○後宇多
天皇ノ皇

位ヲ伏見天皇去十二日自關東依申也〇關東ハ北條

増鏡卷六老の何とあり過ゆ不どふ弘安も十年ふなりぬ

この帝〇後宇多天位ふつさ給ひて十三年ぼりみなきぬらん

本院〇後深草天待望ほふおぼさるらんといとほ

ちりりちあふや、例法東より奏する事阿家〇東ヨ

ルトハ北條貞時新院〇龜山天能所いひぎぬあは心細う

少一め一なやむべ一云云よりうづあこのぞおぼさるるほ望

なれど、その年の十月〇弘安十年おぼさるる世給ふ〇後

天皇ノ北條貞時ノ奏ニ從テ皇もとのうへ〇後宇多天ハ廿

一よりなやむる世給ひける、所本上もいとるは

後くるるまほふおぼさるる、まぐよのおぼさるるか

さうおち一おせむ、所まつりごとおぼさるるも

元一などおぼされつるふ〇龜山天皇ノ院中ニ於テ政務

ノ當今後宇多天皇ニ讓ラシ〇後深草天ふあ

げあ、新院のおぼさるるべ一、春宮〇熙仁親王ニテ位ふ即給

ひぬれば、天下本院〇後深草天ふあ

わりのれる人おぼさるるも、おぼさるるはあぞ

北條九代記卷十一 弘安十年十月廿一日京都ニハ主上〇後

宇多天皇御讓位ノ御事アリ、主上今年僅ニ廿一歳ニナラセ

給フ、龜山ノ新院モ只今ノ御讓位ハ餘ニ早速ノ御事ナレバ、

イマダ遅カラズ御残り多クオボシメシ、主上モ本意ナラズ

ト聞エサセタマヘドモ、後深草ノ本院〇伏見天皇強ニ待兼

サセタマフベシ、只疾御位ヲユヅラセタマハンハ然ルベキ

太平比和ノ御基タルベキ旨、關東ヨリ奏シ申セバ、御心ノマ

ナラズ、俄ニ御讓位有テ東宮熙仁御位ニツカセタマフ

皇位継承 卷之九

〇後伏見天皇

増鏡卷七第十

又の年おむ月の頃○正安二年正月ナリ

内侍所注連の

おまほへるをいふあまへきとらふこころあまの思ひてささめ程

とそられ、あまの能事使○北條貞時使者ナリのほるとく世中さわ

ぎく、禅林寺殿見奉り給ふ世ふとや○禪林寺殿トハ龜山天皇ノ皇統ヲイヘルニテ、

皇ヲサシテハ後二條天皇○邦治親王ニテ即位す

つう勢給ぬ、ありあはしつ○後伏見天皇ヲイフ十四少々太上天皇は

尊号あり

北條九代記卷十一 正安三年正月鎌倉ヨリ使節トシテ隠

岐前司時清山城前司行貞上洛シテ、主上ノ御位ヲ下シ奉リ

○主上ハ後伏東宮テ即位ニ條天皇ナリヘユヅリ奉り給フ、

主上今年イマダ十四歳御在位ワヅカニ三年ニシテ、何ノ御

事モオハシマサバリケルヲ押オロシ奉ルコト、天道神明ノ

照覽モイカバ恐ロシトヅ心アル人ハ申合レケル、太上天皇

ノ尊號蒙フラセタマヒケリ、王道久シク廢レテ政事ニ付テ

ハ萬敵慮ニ任セラレズ、天下ハコレ天子ノ天下ニモアラズ、

又天下ノ天下ニモアラズ、關東ヨリ計ラヒ奉リ、武家ノ天下

トナリケルコトヨト申ス人モ多カリケリ、邦治親王御位ニ

ツキタマフ、御寶筭十七歳、二條太政大臣兼基公關白タリ、龜

山法皇後宇多上皇スデニ院中ニシテ御政務ヲ聞シメス

○花園天皇

増鏡卷八秋の 文保二年二月廿六日序○花園天皇

させ給ふ、春宮○尊治親王ニテ即位す後醍醐天皇ナリ

へ、給ふはなるとつよめをやくおほさるる○花園天皇即位後醍醐天皇

皇ニ讓シコトハ、伏見天皇御在位ノ時、北條貞時カ計ラヒテ

以テ、強テ定メタル例ニ因ルニテ、花園天皇ノ意ヨリ出タル

ニ非ズ、次下ニ北條九代記ヲ引テ、其ノ事情ヲ示ス、尚委シ

クハ卷六定策非例ノ條下ナル權臣兩皇統迭立ノ識ヲ建テ

定メテ治世ノ期限ヲ十年ニシテ、○花園天皇即位後醍醐天皇

トセシ事ノ條ヲ見ルベシ

皇位継承篇 卷之九

北條九代記卷十二 文保二年二月二十六日京都ニハ御讓
 位ノ御事アリ、主上皇ヲイフ今年二十二歳、春宮尊治親王
朝天皇ハスデニ三十歳ニアマリ給フ、コレハ後宇多院第二
 ノ皇子尊治親王ト申奉ル、御母ハ談天門院、參議忠繼卿ノ御
 女ナリ、皇子スデニ春宮ニ立テ御年三十一歳ニナラセ給ヘ
 バ、後宇多法皇ヲ初メタテマツリ、ソノ方ザマノ人々ハ待兼
 サセラルベシトテ、關東ヨリ計ラヒ申テ、同廿九日尊治親王
 御位ニ即給フ

遜位

天皇事故アリ、己ムコトヲ得ズシテ皇位ヲ避
 ク、今是ヲ記シテ遜位ト為シ、以テ讓位ト別ニ
 ス、文字上ニ於テ論ズレバ、讓位ト遜位ト別ナ
 シ、百練鈔ニ鳥羽天皇云云、保安四年正月廿八

日遜位ト記セリ、鳥羽天皇ノ遜位ハ即讓位ナ
 リ、以テ知ルベシ〇神皇正統記卷五高倉院云
由、世をいとほせば一ける曰、名とぞ、ト而シテ
 アリ、コレモ亦讓位ヲ遜位トイヘリ、今特ニ讓位ト記セズシテ、遜位ト記スル者ハ、
 唯天皇事故アリ、己ムコトヲ得ズシテ皇位ヲ
 避クルヲ認メシメント欲スルノミ、抑、天皇事
 故アリ己ムコトヲ得ズシテ皇位ヲ避クト雖
 ヘドモ、而レドモ其ノ神器ヲ以テ新主ニ傳フ
 ルカ如キハ遜位ノ例ニ非ズ、今遜位ト稱スル
 者ハ、天皇事故アリテ皇位ヲ避ク、其ノ神器ニ
 於テハ受クル者無シ、是ヲ遜位トイフ

陽成天皇

陽成天皇 花山天皇 仲恭天皇

陽成天皇紀 元慶八年二月四日先是天皇手書送呈太政大臣
臣基經曰朕近身病數發動多疲頓社稷事重神器已守所願
速遜此位焉宸筆再呈肯在難行是日天皇出自綾綺殿遷幸二
條院二品兵部卿本康親王右大臣從二位兼行左近衛大將源
朝臣多云云扈從文武百官供奉如常但少納言不奏給鈴之狀
諸衛不稱警蹕異ナルヲイフ神璽寶劍鏡等依例相從驛鈴符
內印管鑰等留置承明門內東廊令參議正四位下行左大辨兼
播磨守藤原朝臣山陰從五位上行少納言兼侍從藤原朝臣諸
房左少辨正五位下安倍朝臣清行等留守焉會文武百官於院
南門院南門ハニ條詔曰現神止大八洲御宇日本根子天皇
加御命止良萬宜御命乎親王等王等臣等百官人天下公民衆聞
給止宜食國乃政乎永遠聞食倍喜御病時々發止有天萬機滯
止已成奴天神地祇之祭毛闕急止有奈危畏利念天保之天

皇位乎讓遜給天別宮爾遷御坐止宜御命乎親王等大臣等聞
給部而陽成天皇二條院遷御アリテ皇位ヲ讓ルノ意ヲ宣
審ナリ因テ次下ニ諸誓ヲ此ノ如クナリシニヤ頗不承詔天
成天皇ノ文ヲ受ケテ下ノ承ルニ引テ其ノ情實ヲ示ス承詔天
之尊號乎進留上群臣奏シテ陽成天皇ニ太上天皇ノ尊号ヲ
上尊号トアルハ誤ナリ陽成天皇ノ尊号又皇位波一日不可
号ハ光孝天皇即位ノ後上リシニ非ズ又皇位波一日不可
曠一品行式部卿親王波即光孝天皇ニテ諸親王中爾貫首毛
御坐又前代爾無太子時波如此老德乎立奉之例在加以御齡
母長給比御心母正直久慈厚久慎深御坐天四朝爾佐仕給天
政道母熟給利百官人天下公民未天謳歌所飯咸無異望故是
以天皇重綬乎奉天日嗣位定奉乎良久親王等王等百官人天
下公民衆聞給止宜時康親王ヲ迎ヘテ天皇トスルヨシノ宜
命ナ中納言在原朝臣行平於庭誥之百辟群寮並立侍焉事畢

王公已下拜舞而退、於是神璽寶劍鏡等舟於王公、即日親王公卿步行奉天子神璽寶劍鏡等今皇帝皇○光孝天皇於東二條宮、百官諸仗圍繞相從、二條院與二條宮相去東行數百步、是夜皇太后○陽成天皇ノ御藤原高子ナリ出自常寧殿遷御二條院焉

大鏡卷二 太政大臣基経乃おとほは長良中納言孫三郎小

あけを云云陽成院おとほは孫あべき定基ふさつらりせ孫ふ

融のおとほはやんとたつて信ふつらんやゆふ深く近江王

融をとほは融らも信ふるといひりてさうるを、その大臣

○基経 王胤なれど姓を孫とまて人ふつてそれて、信ふつて

なる事、河原中と申出給へき、さも阿る事なれた、その大臣

さづめふよき、小松天皇 ○小松帝ハ即光孝天皇ナリ 信ふつて孫へるあり

○光孝天皇ハ陽成天皇ノ讓ヲ受ケシニアラズシテ、基経等

ノ勅進ニ從テ皇位ニ即キタルヲイヘリ、此ノ條宜シク皇子

承トシ事ノ條ト合觀スベシ

愚管鈔卷三 陽成院九ふつて、信ふつて、八年迄の間、昔

武烈天皇は如く不斜儀、おほし海、おほしをち、

昭宣公基経ハ、括政あり、諸卿群議あり、是より國を

治す國を治すおほし海をべきとくなんあら、一あらせん

とて、やうく小定あまけるふ、仁明孫御子ふ、時康親王

○光孝天皇、武部卿の宮あり、おほし、けるを遠く

とまて、信ふはけさるせられける、是々光孝天皇あら

宇治大納言物語下卷 関白殿 ○基経 をは、め、せり

せむんと、教あひ孫へどうなり、い、のどもを、

あらめ、とちなを、を、い、ら、も、た、く、春、ま、せ、猫、ふ、龍、を、

や、と、を、犬、様、な、を、た、く、つ、殺、さ、せ、孫、ふ、と、ふ、あ、る、り、

ち、あ、る、人、を、本、ふ、孫、ぼ、せ、さ、せ、孫、う、り、ち、ち、ら、り、せ、孫、ひ

つ、い、ら、り、も、な、く、人、死、ぬ、る、ふ、関、白、あ、り、昭、宣、公、な、が、り、

をらすぢやな、位をおろし、系下をむとあほし、やうに
 ぬかす官より又近き侍門の侍ぞう、秋原氏小末孫へも
 かなとを名なりき孫ふ、夫達と心え、よく見えむとつくりひ
 きくめさ、阿孫孫へもつぎぐ、つぎぐを、とれもさう
 是もよくも名をぞと物ほしく、小春孫也 ○時廉親王ノ官ニ
 へありては由中させ孫へ、さ夢らせ孫ぬと、志保しあて
 入まりて、とみふ出させ孫を、けさのく物孫とあほを
 孫あを出張へる、ふあめさ神さびて侍重夜も若うを、
 あつり顔なるさ孫ふて、何事ふまよりさせ孫ひ、うを、
 との孫ひ、うるさ孫もよあり、まき、位あつさせ孫ひ、うらん、
 かうくおはし、ま、なんと名を孫ひて、かうく、と、孫へ、
 つらを、つりと同させ孫へ、孫へ、か、さふらひぬ、孫ら、あさ
 て日もよく侍ふ、さ、白とく、孫ひぬ、さ、肉、ふ、孫へ

れば ○基經ノ内裏へ歸 木お人をのほせ、うちらう、たるを
 辱ト、人々笑ひ我もわらひ入、あは、ます、いとあさ、
 あさ、
 〇基經 中孫ふ、つぎぐ、お侍へ、か、さ、馬も孫せん、
 街ふ、行幸、一、侍、孫を、さ、孫ふ、いと、
 よろらさせ孫ひて、つらを、つりと作らるれば、あさ、
 よろらび、つら、かと侍勢孫ふ、さ、白ふ、威ぬれば、かん、
 殿上人、か、あ、り、て、よ、ま、を、さ、り、と、め、年、老、い、未、
 ま、さ、人、つ、つ、ま、つ、ま、場、來、院、と、つ、あ、侍、興、よ、せ、
 一、奉、ま、ら、さ、ま、は、ま、物、狂、さ、く、人、を、さ、人、殺、せ、孫、ひ、て、
 う、せ、侍、ひ、ぬ、べ、り、れ、ば、あ、ら、う、糸、ら、せ、つ、る、と、か、け、ら、を、せ、
 孫ひて、お、怨、さ、ら、ま、り、あ、と、く、あ、ら、く、を、孫、ひ、
 りける

○花山天皇

日本紀略 花山院云 寛和二年六月廿三日庚申、今曉丑刻
天皇密々出禁中向東山花山寺落飾于時藏人左少辨藤原道
兼奉從之、先于天皇密奉劔璽於東宮 ○東宮ハ懷仁親王ニ出
テ即一條天皇ナリ

官内云 九年十

榮花物語 山 中納言なども侍者並ちふつうはつり給は

せよ、寛和二年六月廿二日 結東 ○廿二日トアルハ誤ナリ係
廿三日ノ夜トアルベシ 係
みうせさせ給ひぬとの志あるらちのそとら給殿上人かんごちべ
阿や志給 衛士仕丁ふ玉るまへ、歩る處なくりやめまるあ
由名ふおちりまへ給、おほきあまふよりけし先諸卿殿上人
給あつて集りて、盡くをき入るまるあ、いづらふこゝろおちり給
ん、あまふしうのりつらうて、一天下あざうて花給うちふおちり
さつらうて

大鏡卷一 ○大慈
光院本

寛和二年 丙 六月廿二日の夜阿まふく

一 事を、人ふと知られさせ給らば、あまふしう花山寺あおちり
ゆら、侍出苑入道せう勢給へまふとて、佛年十九、始天下
二年、さう後廿二年ぞおけしあまふ、ありれふしけること、あま
おけしあまふけるあ、藤壺給入の臣局のちより出させ給ひ
けるふ、有明給月のいづらうけられ、見澄ふとそあり
られ、いづらまをいづらんと作せられけるを、さうまふとせ給ひ
べさやう侍らば、神金寶紐授りいぬるいと、粟田殿のさ
がしり給ひけるあ、いづら帝い出させおけしあまふりけるさ
きふ、まづのらとまふとて ○東宮ハ懷仁親王ニ
テ即一條天皇ナリ 乃侍方あ授
しあまふとせ給ひける、還王のいせ給ちん事いあるまふとあおちり
志かしとせ給ひける事を、さやけさ新まを申、おけしあま
ける程ふ、月のおりてふむと雲給らうりてあしとさかり
ければ、さか出家兼能なるままけまと作せられ、あま

出させ給ふ程云云 花山寺におありし時、つとて、侍らるるお
ろさせ給ひてのち、粟田殿の侍らるるおとあつたもかけらぬ
候、今一度もなまじくかくと粟田中へ、必まなま侍らんと給ひ
ければ、我をばその家なりたりとて、そを泣かせ給ひれ、何れ
ふりあひきこなり) ○文ニ天皇手ツカラ神器ヲ取テ東宮
ルナリ、其ノ人トイフハ、恐ラクハ藤原道綱ナラン、其ノ故ハ
古鈔本、所謂道遙院殿本ノ栄花物語、花山ノ巻ノ書入ニ、寛和
二年六月廿二日、天皇密以左近少将藤原道綱被奉至、東宮
御所、花舎俄於東山、花山御出家、臣權僧正尋禪出家入道御
名入覺トアリ

○仲恭天皇

百練鈔卷十二 承久三年七月八日 云云 今日一院 ○後鳥羽
フ并修明門院於鳥羽殿御出家云云 主上皇 ○仲恭天皇密々渡御
九條殿云云 ○仲恭天皇ノ遜位ヲイヘリ、是ノ時ニ當テ天皇
非ズ 神器ヲ新主ニ傳ヘテ、而シテ後位ヲ避ケタルニ

皇年代略記下卷

承久三年

巳四月廿日

甲受禪

七月九日

辛廢之 神璽鏡劍弃置閑院密令退九條第給未即位 ○仲恭
器ヲ弃テ九條第ニ退クトアルニテ、遜位ノ情実ヲ知ル

東鑑卷廿五 承久三年七月九日 云云 先帝 ○仲恭天皇於高陽
院皇居遜位密々行幸九條院、戊剋新帝皇 ○後堀河天自持明院

殿被還御閑院 車 其間自持明院迄于禁裏軍兵警衛路次云云
神皇正統記下卷 廢帝 璋の懐成、順徳の女子、所母を東

一條院 彦系が立子、故抄改を改大臣良経の女なり、承久三年
まは頃より、上皇思ひめ、三幸、何りられ、偏小讓國

終ふ、順徳所 恥をうろたへ、合戦のみをも、心とる所 心せき
せ給ふ、即位登壇までもなく、軍やぶき、か、外男

折込道家の大臣が九條の第へ移されさせ給ひ、三種が

神皇正統記 閑法の月裏ふをく、皇とよき、讓位おのち七十
七ケ日能る志をらく、神皇を傳へ給ひし、のども、日嗣ふき
かへきなりぞ、版を能く皇は、御所ふあをく、中にとそ
○仲恭
皇位ヲ遷レタルヲイフ、然ルヲ増鏡卷一、新島と云、七月九
日、内門をもち、おろし、たてまつり、きこ、卯、月、あ、と、よ、彦、讓、位、と
て、め、で、さ、り、り、こ、れ、や、ち、の、あ、り、と、あ、り、の、ふ、み、よ、み、人、の
さ、め、い、ち、お、は、さ、る、れ、い、あ、り、と、あ、り、の、ふ、み、よ、み、人、の
い、ひ、ら、お、ち、を、る、り、や、う、の、ら、と、あ、り、の、ふ、み、よ、み、人、の
他、ク、ガ、ハ、ル、記、シ、マ、ナ、リ、仲、恭、天、皇、此、ノ、一、乱、ニ、ヨ、リ、天、自、降、シ
位、ヲ、遷、レ、ク、ル、ナ、レ、バ、打、見、ル、所、ハ、北、條、氏、ノ、強、テ、皇、位、ヲ、降、シ
、如、ク、モ、記、セ、ル、者、カ、ノ
如、ク、モ、記、セ、ル、者、カ、ノ

北條九代記卷六 懷成親王 皇○仲恭天ハ新院 皇○順徳天ノ御
ユヅリヲウケサセ給ヒケレ共、御即位ノ式モ調ノハズ、程ナ
ク此乱ノ乱ヲイフアリシカバ、三院トモニ遠島ニウツサレ
サセ給ヘバ、關東ヨリ計ヒ申テ僅カニ九十餘日ニシテ御位
ヲオロシ奉リ、九條ノ廢帝ト申テ、王代ノ數ノ外ニオハシ

マス ○仲恭天皇自、皇位ヲ避ク、後堀河天皇皇位ニ即ク、而シ
バ、則、唯、先、帝、ト、稱、セ、シ、欽、兼、久、軍、物、語、ニ、セ、ん、て、い、ト、見、テ、皇、代
曆、ニ、ハ、九、條、先、帝、ト、見、テ、皇、胤、紹、運、錄、ニ、ハ、九、條、廢、帝、ト、見、テ、皇、代
代、記、ニ、ハ、廢、帝、ト、見、テ、而、シ、テ、又、天、皇
ヲ、以、テ、太、上、天、皇、ト、セ、シ、ヲ、聞、カ、ズ
廢位
廢位トハ天皇事故アリ、前天皇因テ皇位ヲ廢ス
ルヲイフ、陽成天皇仲恭天皇ノ如キハ、自、皇位ヲ
避ケシナリ、故ニコレヲ以テ廢位トハイフ可カ
ヲザルナリ

○淳仁天皇

淳仁天皇紀 天平寶字八年十月壬申高野天皇 ○孝謙天遣
兵部卿和氣王左兵衛督山村王外衛大將百濟王敬福等、率兵
數百圍中宮院、時帝遽而未及衣履、使者促之、數輩侍衛奔散、無
人可從、僅與母家三兩人步到圖書寮西北之地、山村王宣詔曰

掛末久長朕我天先帝乃御命○聖武天皇以天朕仁勅之天下
 方朕子伊末之仁授給事之云方王乎奴止成毛奴乎王止云毛止
 汝乃為未仁假令後仁帝止立天在人伊立乃後仁汝乃多無
 禮之不從奈賣久在牟人方帝乃位仁置方許止不得又君臣乃理
 仁從天真久淨岐心乎以天助奉侍之帝止在方已止得止勅岐可
 久在御命乎朕又一二乃豎子等止侍天聞食天在然今帝止之
 侍人乎此年已呂見仁其位毛不堪○淳仁天皇ハ其ノ位ニ堪
 ナリ是乃味不在今聞仁仲麻呂止同心ガザル者ト孝謙天皇ノ詔
 竊六千乃兵乎發之等等乃比又七人乃味關仁入牟止謀家精
 兵乎之押天非壞亂天罰滅止云利故是以帝位方乎退賜天親王
 乃位賜天淡路國乃公止退賜止勅御命乎聞食止宜皇○孝謙
 淳仁天皇ノ位ヲ廢シテ更ニ親王トシ淡路公ト為ス別ニ天
 コノ淡路公ハ姓氏ニ上毛野君ト云フト別ニ天
 藤原不比等ヲ淡海公ニ封スナド事畢將公及其母到小子門
 ト同例ナリ姓氏ト混スヘカラズ

庸道路鞍馬騎之右兵衛督藤原朝臣藏下麻呂衛送配所幽于
 一院勅曰以淡路國賜大炊親王國內所有官物調庸等類任其
 所用但出舉官稻一依常例又詔曰船親王波九月五日尔仲麻
 呂止二人謀家良書作五朝庭乃答計五將進等謀家又仲麻呂
 何家物計尔夫流書中尔仲麻呂等通家謀乃文有是以親王乃名
 波下五諸王等成五隱岐國尔流賜布又池田親王波此夏馬多
 集天事謀止所聞支如是在事阿麻多太比所奏是以親王乃名
 波下賜天諸王等志土佐國尔流賜布詔大命乎聞食止宜○仲
 皇ノ御兄船親王池田親王モ亦野セラレ
 天親王ヲ降ニテ諸王トナスヲイヘリ
 水鏡下卷 十月九日上天皇○孝謙天
 裏をかくみ給ひしつゝ、官乃うち候し人々皆あけ失せふ
 しつゝは、帝皇○淳仁天
 歩行みし、圖書憲乃方ふおしりてま給

宣命をば讀み奉りて、少納言云むのひきき、位おろしきる仲丸
 給ふ命きうつをちのにおはせぬ河はせし、仲丸と目下
 幼少、赤をそとせりんとは、給ひたま、あられが帝の位を
 退け給ひて親王の位を降ふと、淡路の國へ流さる給ひ
 とき、心くくゆし事なり
○此ノ書ニ淳仁天皇ヲ淡路廢
 帝ト記セリ、續日本紀ニハ廢帝
 セリ

神皇正統記中卷 第四十七代淡路廢帝 云云成成の年即

位、天下改治、先給ふ事六年、事有了、淡路の國ふらうされ
 給ひき

皇代記上卷 淡路廢帝云云天平寶字八年甲辰十月退帝位

賜親王号 年廿三 為淡路公賜淡路國高野天皇重祚

皇年代略記上卷 廢帝云云天平寶字八年甲辰十月日退帝位

賜親王號為淡路公即賜當國 廿二 天平神護元年 己巳 九月薨 三廿

廢位 稱淡路廢帝 〇廢位ハ前天皇アリテ、當天皇ノ皇位ヲ廢
 一年 稱淡路廢帝 〇廢位ハ前天皇アリテ、當天皇ノ皇位ヲ廢
 一、各條ニ引ク所ノ書ヲ認メテ知ルベシ、而シテ諸書ニ並
 カラズトイフベシ

廢位異例

廢位異例トハ、天皇事故アリ、前天皇因テコレヲ
 廢スルヲイフ、今此ニ其ノ異例ノ名ヲ設クル者
 ハ、天皇在テ別ニ帝ヲ稱スル者アリ、天皇乃其ノ
 帝ヲ稱スル者ノ位ヲ廢シ、而シテ後太上天皇ノ
 號ヲ上ルヲイフ

光嚴天皇 崇光天皇

○光嚴天皇

皇年代略記下卷 光嚴院 云云正慶二年三月十二日主上 光〇

嚴天皇并兩院園○後伏見天皇花幸於六波羅内侍所同渡御以
月以未伯州主皇後仲時益奉保護了五月七日六波羅城敗
乱之故也當所探題仲時益奉保護了五月七日六波羅城敗
績仲時等奉伴主上上皇皇○光嚴天皇後伏見上以下赴東國於
州番場仲時益等自同十日遷御伊吹山太平護國寺暫以此
殺三主以下御逗留同十日遷御伊吹山太平護國寺暫以此
所兩院以下又同御此寺此間為伯州詔命奉退皇位元号又廢
更復元同七月八日自江州還幸於京師十二月十日被獻太上
弘三年同七月八日自江州還幸於京師十二月十日被獻太上
天皇尊號同日被獻隨身兵杖天○光嚴天皇為スヲイヘリ
皇代曆下卷 光嚴院云云正慶二年三月十二日依天下亂行
幸六波羅五月十日赴東國同廿五日以後廢帝同年十二月十
日太上天皇尊號
神皇正統記下卷 官軍力を得一ちふ五月八日都下有る軍
○北條氏ノ皆やぶれて、あづま心ざし落行ふ支院後
共ヲイフ伏見花園兩新帝皇○光嚴天同トくとふとあり、を江能國
院ヲイフ

馬場とりの處あり、公家皇○後醍醐天にむざし河家軍亦出ふ
りれば、武士等戦ふるもあり、多くも自滅しぬ、兩皇新
帝を都下かへし奉り、官軍られを守りしき、かつて都より
西ぎの程あり、靜まりぬとはえしられを還幸せさせ給ふ○後醍
京師ニ還幸ア、珠みづづらりのあり、幸ふなん云つつの賞
リシヲイフ、兩院新帝をおあごめし給ひて都
野原をおあごめし給ひて都
小使ませせしり、けさ、されど新帝を偽まじ儀あり、正位ありは
用ゐられど、改元して正慶といひしも、本はらうく元江と号せ
らる
太平記卷九 去程ニ五官ノ官軍ドモ、主上○光嚴天上皇後
伏見花園ノ兩ヲ取進セテ、其日先長光寺へ入奉り、三種神器
上皇ヲイフ、并玄象下濃二間ノ御本尊ニ至ルマデ、自五官ノ御方へゾ被
渡ケル

皇位繼承 卷之九

保曆間記下卷 先帝皇〇後醍醐天 攝津國西ノ宮追御上有リ、
 同六月四日東寺へ入セ給テ、同日ニ威儀ヲ調テ則内裏へ
 入セ給テ、重祚有キリ〇重祚トセシハ非ナシ先帝位ニ付セ賜ヒ
 ケレバ、後伏見院并先御門〇花園天皇ヲイフハ何ナル目ヲカ見
 ンズラント思食歎セ給ケレド、天照大神御計ニヤ、無子細テ
 都ニ御坐ス、何ニモ後ニ事アルベキニヤトゾ申ケル〇此ノ書後醍醐
 〇崇光天皇 翻天皇ヲ先帝ト稱シ又重祚トイヘルナドハ皆非ナリ、採用
 スベカラサルナリ、取ルベキモノハ唯其ノ事實ノミ

皇年代略記下卷 崇光院 云 觀應二年十一月七日奉廢之
 武將和陸賀名生君申行 十二月廿三日被渡内侍所并神璽於
 之廢觀應号為正平六年 南方〇崇光天皇廢セラハ、ニ及テ神器ヲ後村上天皇ニ奉
 武三年十一月二日、花山院ニ於テ光 同廿八日被奉太上天皇、建
 明天皇ニ渡サレシ所ノ偽器ナリ 尊號 於南方行宮宣下云由翌三年閏二月廿日依新主、天氣
 尊號 於南方行宮宣下云由翌三年閏二月廿日依新主、天氣

主天氣トハ後村上天 渡御八幡軍陣 兩上皇御同車云云〇兩
 皇ノ詔アルヲイフ 皇 三月三日奉移河州東條云 〇崇光天皇ノ後村上天
 皇代記下卷 崇光院 云 觀應二年 卯辛 年 正平六年云云此年号暫時
 太平記卷卅 足利宰相中將義詮朝臣ハ將軍ヲイフ鎌倉へ
 下リ給シ時京師守護ノ為ニ被殘坐シケルガ、關東ノ合戰ノ
 左右ハ未聞、京師ハ以外ニ無勢ナリ、角テハ如何様和田楠ニ
 被寄テ無云甲斐京ヲ被落ヌトオボシケレバ、一旦事ヲ謀テ
 暫ク洛中ヲ無為ナラシメン為ニ、吉野殿〇後村上天へ使者
 ヲ立テ、自今以後ハ御治世ノ御事ト、國衙郷保并ニ本家領家
 年来進止ノ地ニ於テハ、武家一向其綺ヒヲ可止ニテ候、只承
 久以後新補ノ率法並ニ國々守護職地頭御家人所帶ヲ武家
 ノ成敗ニ被許テ、君臣和睦ノ恩惠ヲ被施候バ、武臣七徳ノ干

戈ヲ收メテ、聖主萬歲ノ寶祚ヲ可奉仰ト頻ニ奏聞ヲゾ被經ケル、依之諸卿僉議有テ先ニ直義入道和睦ノ由ヲ申テ言下ニ變ジヌ、是モ又偽テ申ス條無子細覺レ共謀ノ一途タレバ先義詮ガ被任申旨帝都還幸ノ儀ヲ催シ而シテ後ニ義詮ヲバ畿内近國勢ヲ以テ退治シ、尊氏ヲバ義貞ガ子共ニ仰付テ則被追罰ニ何ノ子細カ可有トテ、御問答再往ニモ不及御合體ノ事子細非ジトゾ被仰出ケル、両方互ニ偽給ヘル趣誰カハ可知ナレバ、此間持明院殿方ニ被拜趨ケル諸卿皆賀名生殿○後村上天皇ヘ被參先當職ノ公卿ニハ二條關白太政大臣良基公云禪律ノ長老寺社ノ別當神主ニ至ルマデ我先ニト馳參リケル間、サシモ淺猿シク賤シゲナリシ賀名生ノ山中如花隱映シテ、如何ナル辻堂温室風呂マデモ幔幕引カヌ所モ無リケリ、今參候スル所ノ諸卿ノ叙位轉任ハ悉持明

院殿ヨリ被成タル官途ナレバトテ、各一級一階ヲ被貶ケルニ云山中伺候ノ公卿殿上人ヲバ、多年勞功アリトテ超涯不次ノ賞ヲ被行ケル間、窮達忽ニ地ヲ易ヘタリ云云憂カリシ正平六年ノ歲晚テ、アラタマノ春立ヌレトモ、皇居ハ猶モ山中ナレバ、白馬踏歌ノ節會ナシトハ不被行云云二月廿六日主上○後村上天皇己ニ山中ヲ御出有テ、瑤輿ヲ先東條ヘ被從、劔璽役人計衣冠正シクシテ被供奉、其外月卿雲客衛府諸司ノ尉ハ、皆甲冑ヲ帶シテ前驅後乘ニ相從フ云云同十九日八幡ヘ行幸成テ、田中法印カ坊ヲ皇居ニ被成、赤井大渡ニ關ヲ居テ、兵山上山下ニ充満タルハ、混ラ合戰ノ御用意ナリト洛中ノ聞エ不穩依之義詮朝臣法勝寺慧鎮上人ヲ使ニテ、臣不臣ノ罪ヲ謝シテ勅免ヲ可蒙由申入ル、處ニ照臨己ニ下情ヲ被恤、上下和睦ノ義事定リ候ヌル上ハ、何事ノ用心カ候

ベキニ、和田楠以下ノ官軍等混ラ合戦ノ企アル由承及候、如何様ノ子細ニ候ヤラント被申タリ、主上直ニ上人ニ御對面有テ、天下未、恐懼ヲ懷ク間、只非常ヲ誠ノン爲ニ官軍ヲ被召具トイヘドモ、君臣己ニ和睦ノ上ハ更ニ異變ノ義不可有、縱讒者ノ説アリ共胡越ノ心ヲ不存バ、太平ノ基タルヘシト勅答有テゾ被返ケル、綸言己ニ如此士女ノ説何ゾ用ル處ナラントテ、義詮朝臣ヲ始トシテ京都ノ軍勢曾テ今被出被トハ夢ニモ不知、由断シテ居タル處ニ、同二十七日ノ辰ノ刻ニ中院右衛門督顯能三千餘騎ニテ、鳥羽ヨリ推寄テ東寺ノ南羅城門ノ東西ニシテ旗ノ手ヲ解キ、千種少將顯經五百餘騎ニテ丹波路唐櫃越ヨリ押寄テ西七條ニ火ヲ揚ル、和田楠三輪越知真木神宮寺其勢都合五千餘騎、宵ヨリ桂川ヲ打渡テマダ篠目ノ明又間ニ、七條大官ノ南北七八町ニ村立テ関ヲゾ

揚タリケル、東寺大官ノ時ノ聲七條口ノ烟ヲ見テ、スハヤ楠寄タリト京中ノ貴賤上下遽騒グ事不斜云云、細河讚岐守ハ被討又、陸奥守ハ何地共不知落行又、今ハ重テ可戰兵無カリケレバ、宰相中將義詮朝臣僅ニ百四五十騎ニテ近江ヲ差テ落給フ云云、去程ニ敵ハ都ヲ落タレドモ、吉野ノ帝○後村上天ハ洛中へ臨幸モ不成、只此畠入道准后顯能卿父子計リ、京師ニ坐シテ諸事ノ成敗ヲ司リ給テ、其外月卿雲客ハ皆主上御坐ニ付テハ幡ニゾ伺候シ給ケル、同二十三日中院中將具忠ヲ勅使ニテ、都ノ内裏ニ御座ス三種神器ヲ吉野ノ主上へ渡シ奉ル○崇光天皇ノ神器ヲ後村是ハ先帝皇ヲ醍醐天山門ヨリ武家へ被渡タリシ物ナレバトテ、璽ノ御箱ヲ被棄、寶劍ト内侍所トヲバ、近習ノ雲客ニ被下テ、衛府ノ太刀裝束ノ鏡ニゾ被成ケル、ゲニモ誠ノ三種神器ニテハナケレドモ、

已ニ三度大嘗會ニ逢テ、毎日ノ御神拜清暑堂ノ御神樂、二十餘年ニ成ヌレバ、神靈モナドカ無カルベキニ、餘ニ無恐凡俗ノ器物ニ被成ヌル事、如何アルベカラント申ス、族モ多カリケリ、同二十七日北畠右衛門督頭能兵五百餘騎ヲ卒シテ、持明院殿ヘ参リ、先、其邊ノ辻辻門門ヲ堅メサセケレバ、スハヤ武士共ガ参テ院内ヲ失ヒ進ラセントスルハトテ、女院皇后御心ヲ迷ハシテ卧沈マセ給フ、内侍上童上鵬女房ナドハ、向後モ不知逃フタメイテ此彼ニ立吟ササスサレドモ頭能御總カニ西ノ小門ヨリ参テ、四條大納言隆蔭卿ヲ以テ、世ノ静リ候ハン程ハ、皇居ヲ南山ニ移シ進ラズベシトノ勅定ニテ候ト被奏ケレバ、兩院明天皇光天皇光主上崇光天東宮直仁親アキレサセ給ヘル計ニテ、兎角ノ御言ニモ不及、只御泪ニノミシヨレサセ給テ、羅敷ノ御袂ヲ絞計ニ成ニケリ、良醫有テ

新院皇光明天御泪ヲ押テ被仰ケルハ、天下乱ニ向フ後僅ニ帝位ヲ雖踐、叡慮ヨリ起リタル事ニ非レバ、一事モ世ノ政ヲ御心ニ不任、北辰光消テ中夏道闇キ時ナレバ、共ニ椿嶺ノ陰ニモ寄り、遠ク花山ノ跡ヲモ追ハマヤトコソ思召ツレドモ、其モ叶ハヌ折節ノ憂サ、豈叡察ナカラシヤ、今天運膺圖萬人望ヲ達スル時至レリ、乾臨曲テ恩免ヲ蒙ラバ、速ニ釋門ノ徒ト成テ、邊鄙ニ幽居ヲトシント思フ、此一事具ニ可有奏達ト被仰出ケレ共、頭能再往ノ勅答ニモ不及、已ニ綸命ヲ蒙ル上ハ、押ヘテハ如何カ奏聞ヲ經候ベキトテ、御車ヲ二兩差寄セ、餘ニ時刻移候ト急ケバ、本院新院主上春宮御同車有テ、南ノ門ヨリ出御ナル云、鳥羽マデ御幸成タレバ、夜ハ早若々ト明ハテ又、此ニ御車ヲ駐メテ、怪ゲナル蘧輿ニ名替サセ進セ、日ヲ經テ吉野ノ奥賀名生ト云フ所ヘ御幸成シ奉ル

〇正平六年後村上

天皇ノ崇光天皇ヲ廢セシコト、太平記ニ記スル所甚委シ故ニ事長ケレド此ニ載セ、以テ其ノ情実ヲ詳ニス

皇位繼承篇卷九終

皇位繼承篇卷十

議官 福羽美静 檢閱

少書記官 横山由清 編纂

大書記生 黒川真頼

皇位繼承ノ次第或ハ九族ノ外ニ及ベル者アリ、故ヲ以テ更ニ今親族圖及ビ繼承類例皇統略系圖ヲ爲リ、繼承ノ圖ヲ系圖ノ上層ニ掲ゲ以テ捷覽ニ便ズ、其ノ繼承ノ圖ニ施ス所ノ線ヲ以テ連ネタル系ハ親族等級ノ系ナリ、點ヲ以テ續ケタル系ハ皇位繼承ノ系ナリ、其系ノ及バントシテ及バザル者アルハ皇位ヲ繼承スベクシテ繼承セザリシ者ナリ、觀ル者コレニ注意スベシ、又女主ノ皇位ヲ繼承セシ大意ヲ卷末ニ附シテ以テ參考ニ備フ

兄ヲ超エテ弟ノ繼承セシ例

二帝 後綏靖 顯宗

祖父ノ後ヲ嫡孫ノ繼承セシ例

一帝 後陽成

祖母ノ後ヲ嫡孫ノ繼承セシ例

一帝 文武

兄ノ後ヲ弟ノ繼承セシ例

二十帝

反正 允恭 畧宣 化欽 明用 崇峻 嵯峨 淳和 村上 圓融 後朱雀 後三條 近衛 順德 龜山 光明 後光嚴 後西院 靈元

姉ノ後ヲ弟ノ繼承セシ例

二帝 孝德 後光明

伯父ノ後ヲ姪女ノ繼承セシ例

一帝 皇極

叔父ノ後ヲ姪ノ繼承セシ例

二帝 仲哀 花山

叔父ノ後ヲ姪女ノ繼承セシ例

一帝 持統

姑ノ後ヲ姪ノ繼承セシ例

二帝 聖武 後桃園

從伯父ノ後ヲ從姪ノ繼承セシ例

一帝 後一條

從姑ノ後ヲ從姪女ノ繼承セシ例

一帝 元正

從祖祖姑ノ後ヲ姪孫ノ繼承セシ例

一帝 舒明

族叔祖父ノ後ヲ從姪孫女ノ繼承セシ例

一帝 稱徳

從兄弟ノ後ヲ從兄弟ノ繼承セシ例

三帝 伏見 一條 三條

再從兄弟ノ後ヲ再從兄弟ノ繼承セシ例

五帝 顯宗 後嵯峨 後二條 花園 後醍醐

族兄弟ノ後ヲ族兄弟ノ繼承セシ例

一帝 後花園

四從兄弟ノ後ヲ四從兄弟ノ繼承セシ例

一帝 繼體

弟ノ繼承スベキヲ兄ノ繼承セシ例

一帝 仁徳

弟ノ後ヲ兄ノ繼承セシ例

二帝 仁賢 後白河

弟ノ後ヲ姉ノ繼承セシ例 皇千代ノ繼承セシ例

三帝 推古 齊明 後櫻町

姪ノ後ヲ叔父ノ繼承セシ例 亦多ク有リ

二帝 天武 高倉

姪孫ノ後ヲ叔祖父ノ繼承セシ例

一帝 光孝

從姪ノ後ヲ從姑ノ繼承セシ例

一帝 元明

從姪ノ後ヲ從伯父ノ繼承セシ例

一帝 後堀河

從姪孫女ノ後ヲ族叔祖父ノ繼承セシ例

一帝 淳仁

再從姪ノ後ヲ族叔父ノ繼承セシ例

一帝 光格

再從姪孫女ノ後ヲ再族伯祖父ノ繼承セシ例
一帝 光仁

皇統畧系圖

皇位ノ繼承ヲ分類スレバ綏靖天皇ヨリ今上ニ至テ凡テ廿八種ナリ、其ノ中ニ父ノ後ヲ子ノ繼承セシ例ハ、系圖ニ於テ一目瞭然ナレバ煩シク贅セズ、其ノ他兄ヲ超エテ弟ノ繼承セシ例ヨリ以下再從姪孫女ノ後ヲ再族伯祖父ノ繼承セシ例ニ至テ、凡テ廿七種ハ其ノ跡ノ異ナル者ニシテ、施ス所ノ等親ノ地位モ亦速ニ會得シ難キ者アリ、故ニ皇統畧系圖ヲ作り繼承ノ圖ヲ其ノ上層ニ記シ、且ツ皇太子日嗣皇子等ノ繼承セズシテ

薨ゼシ者、其ノ或ハ事故アリテ繼承セザリシ者等ノ傳説ヲ略記シ、併セテ一覽ニ便ナラシム

第一代 神武天皇

手研耳命

庶子ナルヲ以テ皇位ヲ繼承セズ、叛クニ及デ誅セララル

神八井耳命

綏靖天皇ノ兄ナリ且日嗣皇子ナレドモ、弟綏靖天皇ノ功德アルニ譲リテ皇位ヲ繼承セズ

第二代 綏靖天皇

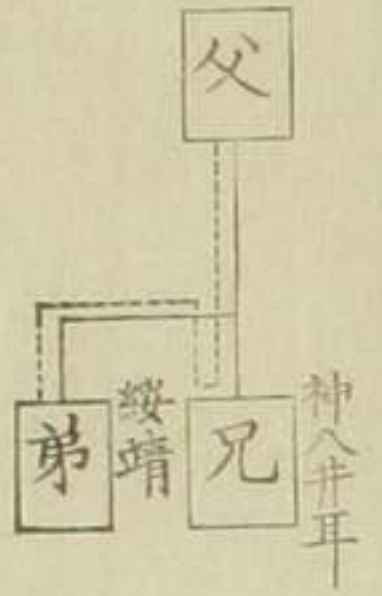
第三代 安寧天皇

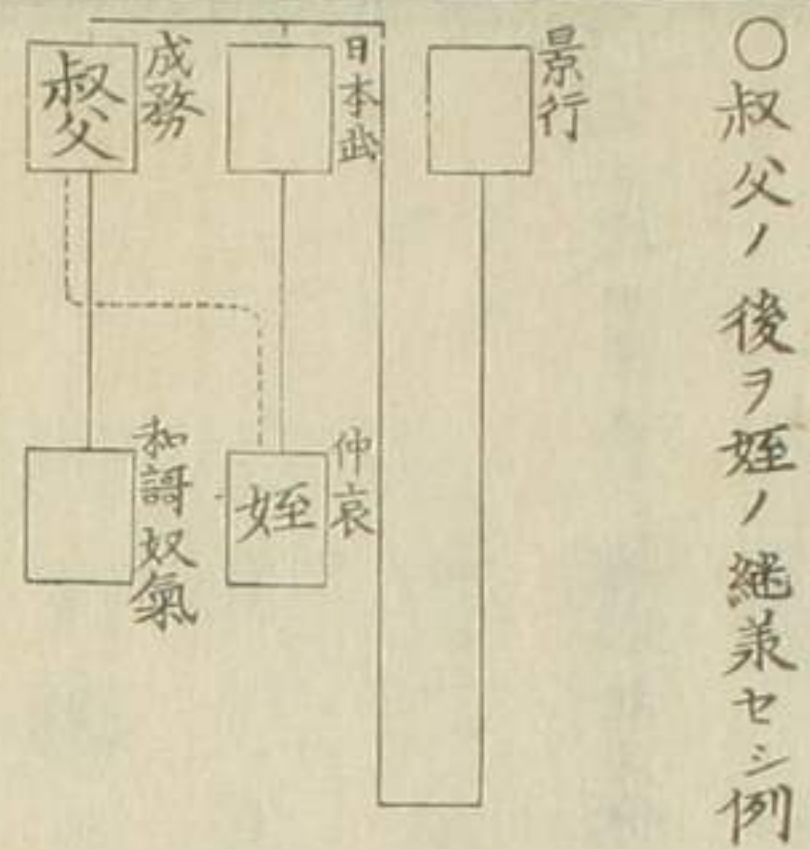
第四代 懿德天皇

第五代 孝昭天皇

第六代 孝安天皇

〇兄ヲ超エテ弟ノ繼承セシ例





〇叔父ノ後ヲ姪ノ繼承セシ例

第^九代 孝靈天皇

第^八代 孝元天皇

第^七代 開化天皇

第^六代 崇神天皇

第^五代 垂仁天皇

第^四代 景行天皇

日本武尊

日本武尊ハ日嗣皇子ナレドモ東征シテ途ニ崩ス故ヲ以テ皇位ヲ繼承スルニ及バズ

第^三代 成務天皇

按スルニ天皇ハ父天皇ノ意ヲ察シ皇位ヲ子ニ傳ヘズシテ姪仲哀天皇ニ傳フル歟、天皇在世ノ中皇右ヲ立テザリシモ亦以テ見ルベキナリ

和諳奴氣王

第^二代 仲哀天皇

第^一代 薨阪皇子

忍熊皇子

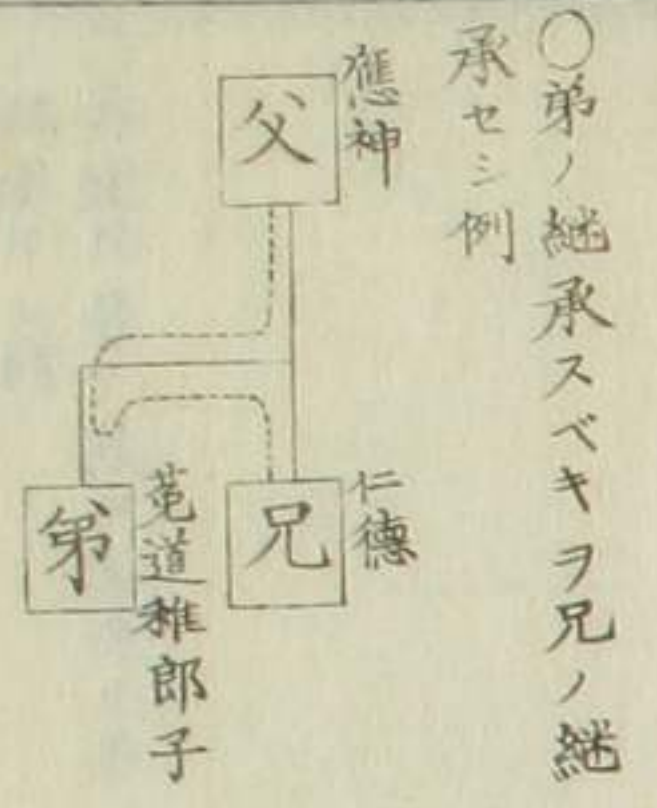
薨阪忍熊ノ二皇子ハ並ニ應神天皇ノ兄ナリ、而レドモ皇右ノ生メル所ニ非ズ、故ヲ以テ日嗣皇子ト稱セズ、故クニ及デ誅セララル

第^一代 應神天皇

大山守皇子

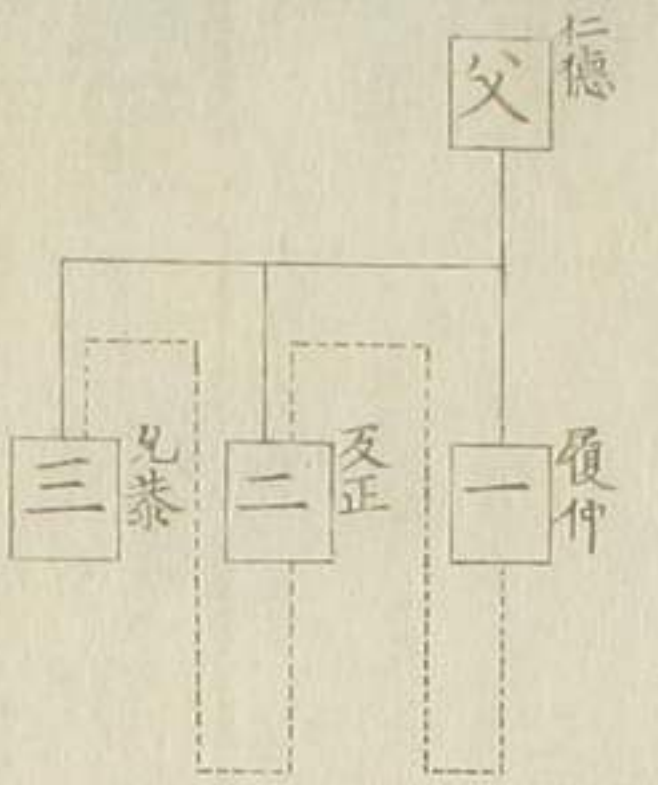
第^一代 仁德天皇

此ノ皇子ノ名詳ナラズ、按ズルニ譽屋別皇子歟
廣子ナルヲ以テ皇太子ニ立タス、
天承スルヲ欲セズ、皇太子菟道稚



〇弟ノ繼承スベキヲ兄ノ繼承セシ例

〇兄ノ後ヲ弟ノ繼承セシ例



兄弟ノ地位ニ一ニ三ト記シタルハ一子ニ子三子ノコトニ非ズ唯順序ヲ知ラシムルノ

郎子、皇子薨スルニ至テ已ムコトヲ得ズ皇位ヲ繼承ス

菟道稚郎子皇子

父、應神天皇特ニ皇子ヲ愛シ立テ皇太子ト為ス、皇子兄ニ越ユルヲ以テ意ニコレヲ適セリト為ス、父天皇崩スルニ及デ皇位ヲ繼承スルヲ辨シテ自殺ス

稚瀆毛二汎皇子

第十七代 履仲天皇

子孫下ニ出ヅ

住吉仲皇子

皇子ハ兄履仲天皇ニ叛シテ誅セラル

第十八代 反正天皇

天皇ハ兄履仲天皇ニ忠アリ履仲天皇因テ皇太子ト為ス、但シ履仲天皇皇子無キニアラズ、

第十九代 兄恭天皇

天皇ノ兄反正天皇崩ス、嗣無シ、天皇因テ皇位ヲ繼承ス

木梨輕皇子

皇子ハ立テ皇太子タリ、嫡乱ナルヲ以テノ故ニ同母弟ノ安康天皇ニ殺サル

第三十代 安康天皇

天皇ハ兄輕皇子ノ嫡乱ナルヲ以テ殺シテ皇位ヲ繼承ス、天皇子無シ

第三十一代 雄略天皇

天皇ノ兄安康天皇崩ス、子無シ、因テ立テ皇位ヲ繼承ス

磐城皇子

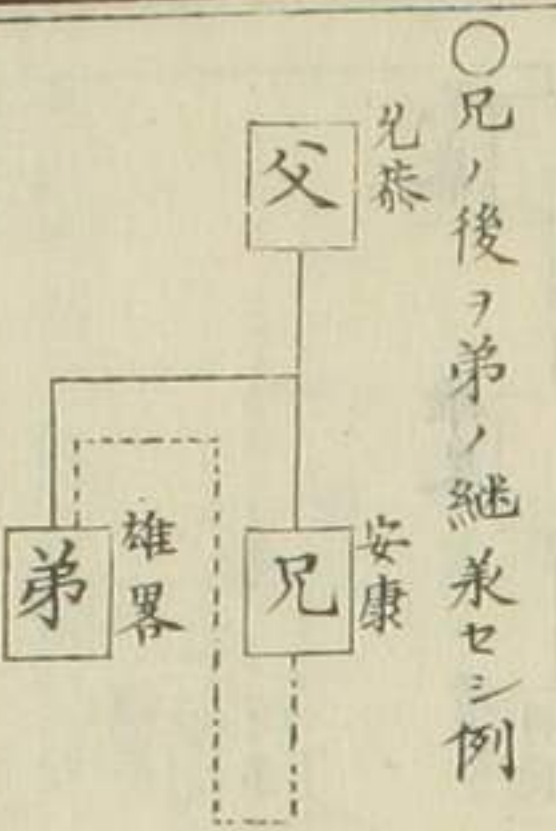
皇子ハ弟星川皇子ノ叛ヲ援ケテ誅セララル、皇子ハ庶子ナリ

第三十二代 清寧天皇

天皇ハ皇子皇女共ニ無シ

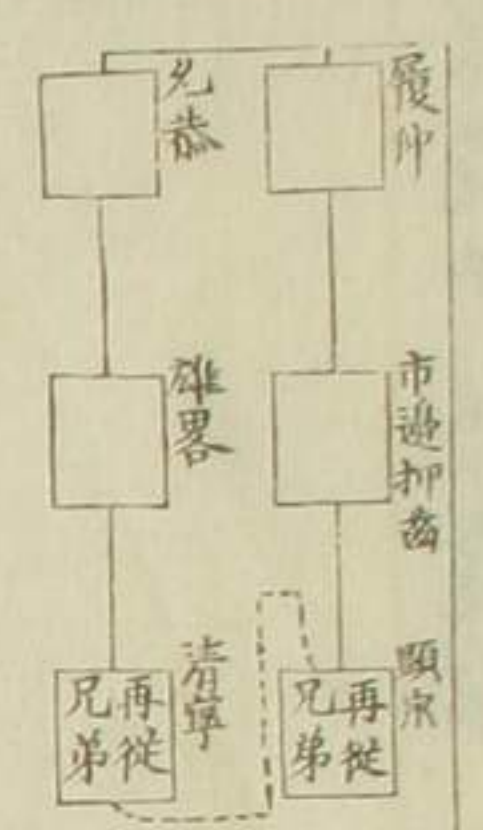
星河皇子

父雄略天皇豫テ皇子ノ叛センコト



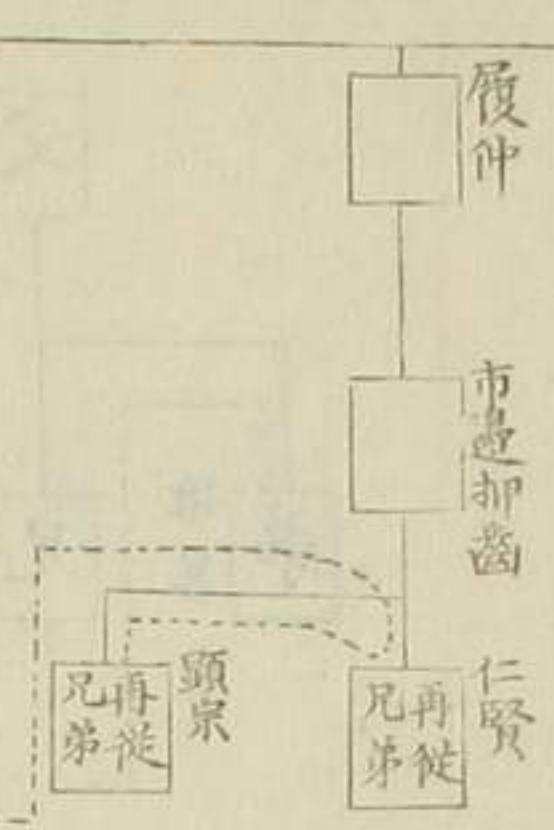
〇再從兄弟ノ後ヲ再從兄弟ノ繼承セシ例

仁德
曾孫
履仲
市邊押齒
顯宗
兄再從
兄弟



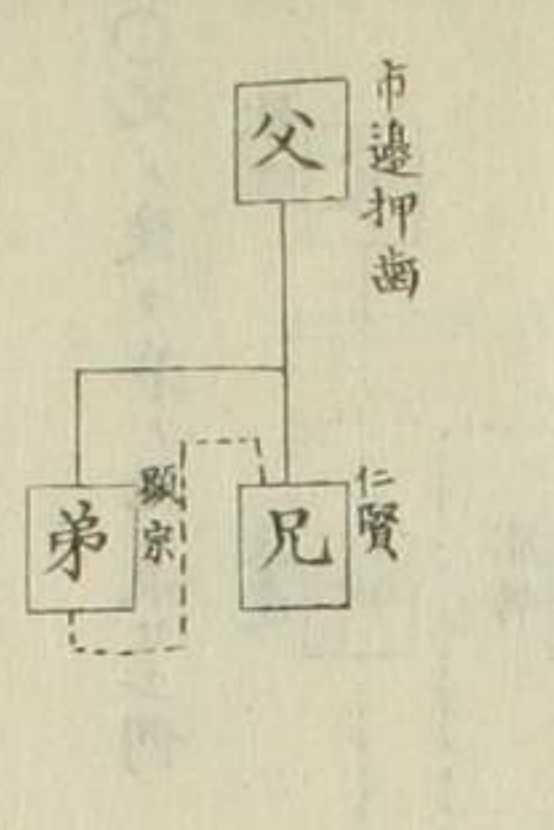
○兄ヲ超エテ弟ノ繼承セシ例

仁賢
曾孫
履仲
市邊押齒
仁賢
兄再從
兄弟

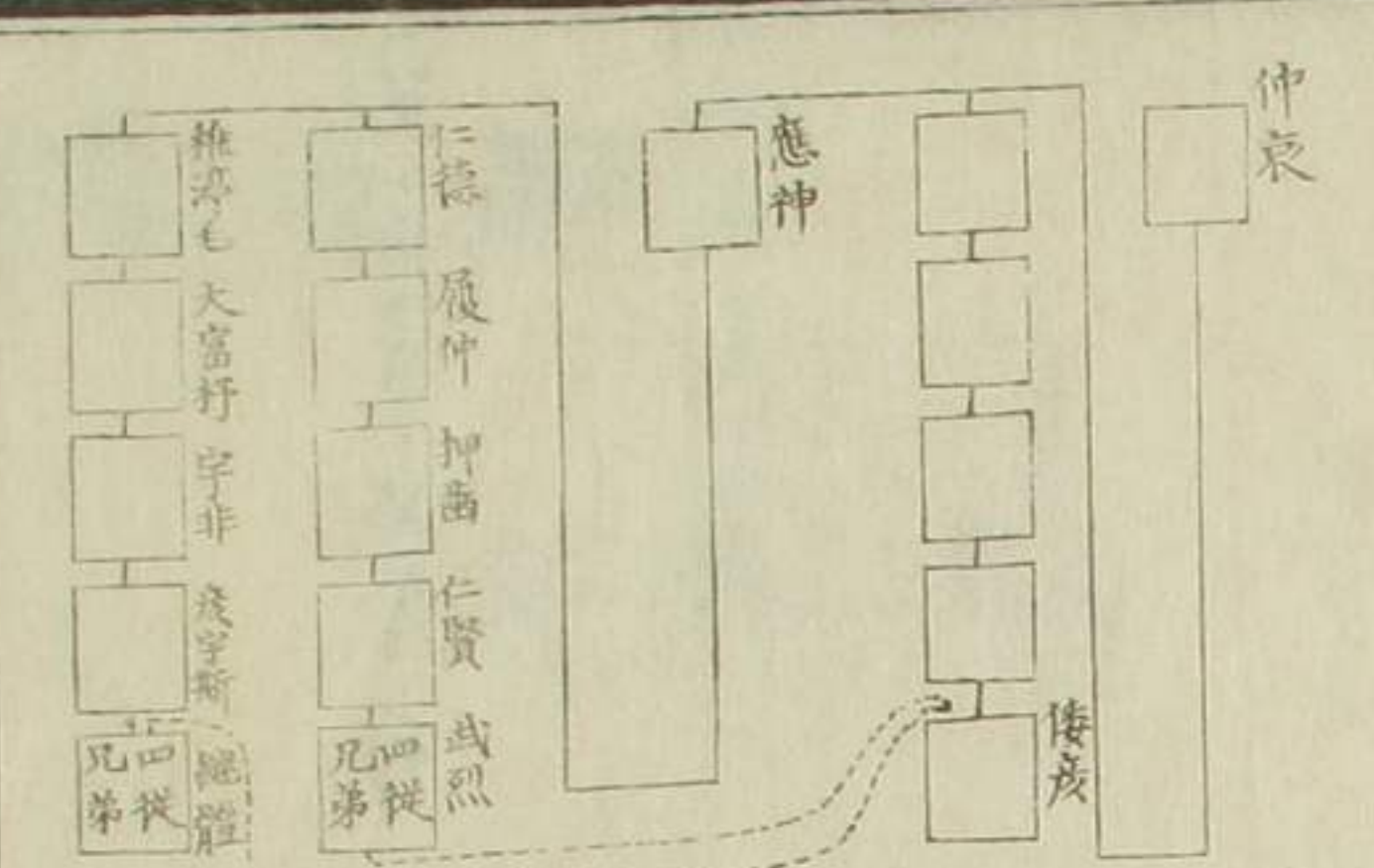


允恭
雄畧
清寧
兄再從
兄弟

○弟ノ後ヲ兄ノ繼承セシ例



○四從兄弟ノ後ヲ四從兄弟ノ繼承セシ例



トヲ知ル天皇崩スニ及テ果シテ叛ス清寧天皇崩スニ及テ果シ

市邊押齒皇子

皇子ハ履仲天皇ノ子ナルヲ以テ安康天皇コレニ國ヲ傳ヘント欲ス果サズシテ崩ス雄畧天皇コレヲ知ル安康天皇ノ崩スルニ及テ皇子俄ニ雄畧天皇ニ殺シサル雄畧立タシテ此ノ皇朝ニ臨テ政ヲニ

飯豐青尊

仁賢顯宗ノ二天皇相讓テ皇位ニ即カズ其ノ間皇女朝ニ臨テ政ヲニ聽ク

仁賢天皇

天皇ハ顯宗天皇ノ兄ナリ而レドモ其ノ弟ノ功勞アルヲ以テ辞シテ皇位ヲ継承セズ弟天皇崩スルニ及テ立テ寶位ニ即ク

顯宗天皇

仁賢顯宗ノ二天皇ハ父ノ難ニ遭ヒシトキ逃レテ播磨ニ走ル後清寧天皇ノコレニ從テ皇位ヲ継承ス天皇子無シ

武烈天皇

天皇子無シ

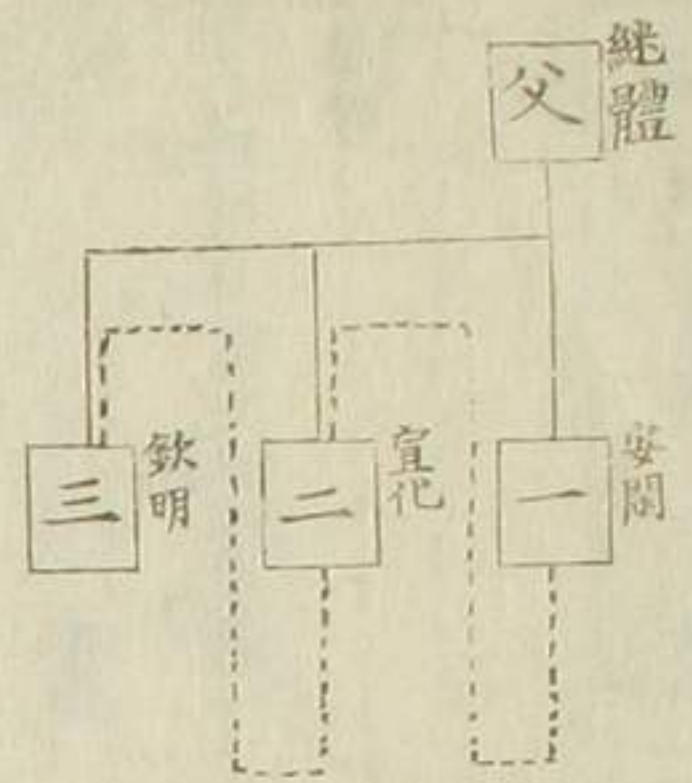
倭彦王

武烈天皇崩ジテ嗣ナシ群臣相議シテ仲哀天皇ニ繼承セシメテ大富村王

大富村王

宇非王 彦宇斯王 繼體天皇 武烈天皇崩ス嗣無シ群臣相議シ

○兄ノ後ヲ弟ノ繼承セシ例



第廿七代 安閑天皇

テ仲哀天皇五世ノ孫倭王ヲ迎ヘントス王逃ル群臣因テ更ニ議ヲ定メテ應神天皇五世ノ孫トイフ

第廿八代 宣化天皇

天皇子アリ而レドモ幼クシテ皇位ヲ繼承スルコト能ハザリシ故ニ其ノ他猶故アル歟

第廿九代 欽明天皇

天皇子アリシヨレモ亦其ノ皇位ヲ繼承セザリシ由ヲ詳ニセズ

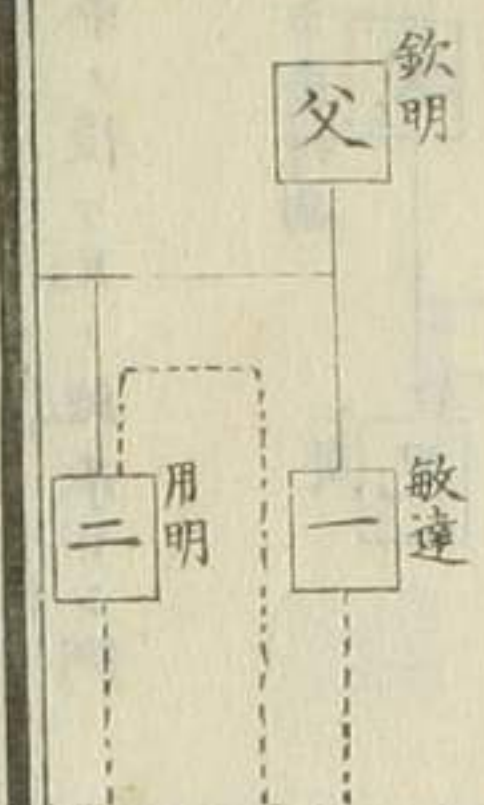
第三十代 敏達天皇

皇子ハ父欽明天皇在位ノ中ニ薨シテ皇位ヲ繼承ス

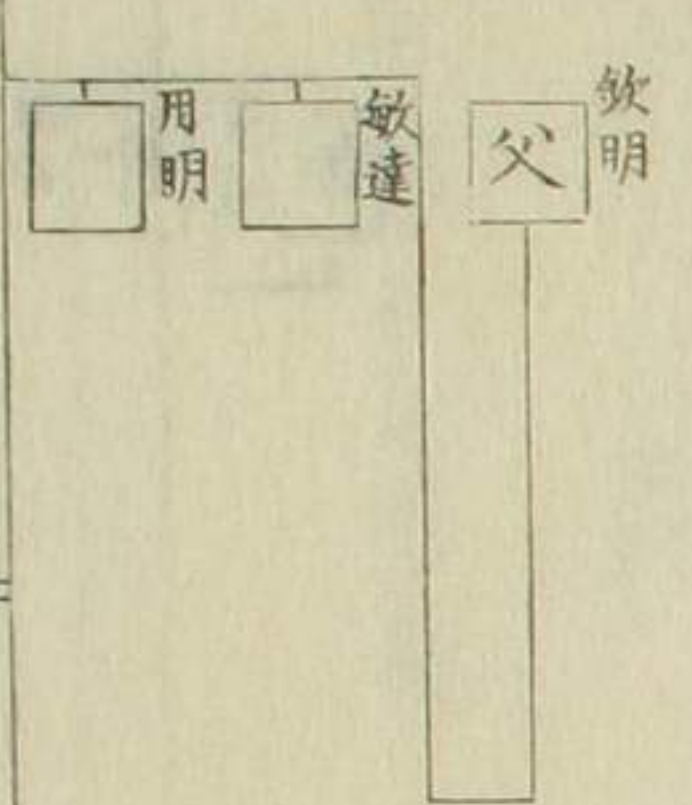
押坂彦人大兄皇子

皇子ハ父敏達天皇在位ノ中ニ薨シテ皇位ヲ繼承ス

○兄ノ後ヲ弟ノ繼承セシ例



○弟ノ後ヲ姉ノ繼承セシ例



第三十一代 用明天皇

皇子ハ父敏達天皇在位ノ中ニ薨シテ皇位ヲ繼承ス

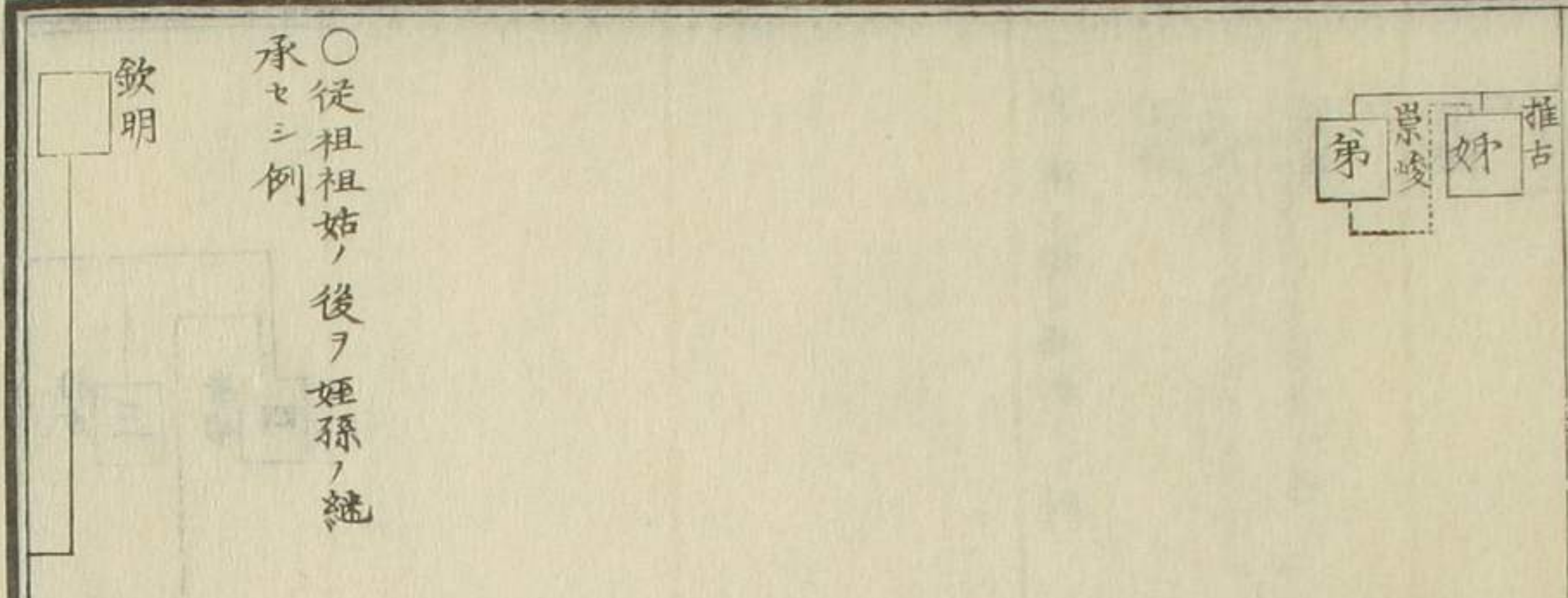
第三十二代 推古天皇

皇女ハ父敏達天皇在位ノ中ニ薨シテ皇位ヲ繼承ス

推古 奸 弟

○從祖祖母、後ヲ姪孫ノ繼承セシ例

敏明



穴穗部皇子

崇峻天皇

ス是本邦女主人ノ始ナリ是ノ時ニ
當テ押坂彦人トモ群臣ノ皇子ハ
セズ、遂ニニレニ主モ群臣ノ意
コル意ハ、
用明天皇崩ス、大連物部守屋獨
子ヲ立テ天皇トセシメ、
蘇我馬子等コレヲ不可ナリス、
皇孫我馬子ニ害セラハ、
崇峻天皇

厩戸皇子

皇太子ノ推古天皇立ツ、皇子ヲ立
テ皇太子ト推古天皇在位ノ
中ニ薨ス

山背大兄王

舒明天皇

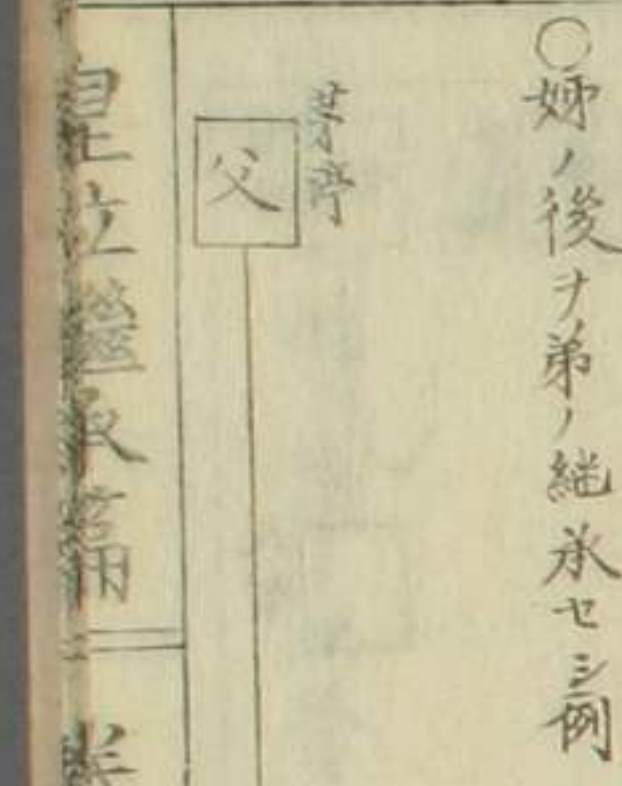
推古天皇崩ス、
山背大兄王ニ臨テ、天皇位ヲ
継承ハ自然ニ定マラル、
テ、山背大兄王ト望セ、
ト、山背大兄王ニ推古天皇
ノ兄ノ孫ニシテ、
皇位ヲ繼承ス

茅渟王

按スルニ茅渟王ハ舒明天皇位
ヲ繼承セガ即位シ、
茅渟皇子ト稱ス、
茅渟皇子ト稱ス

皇極天皇

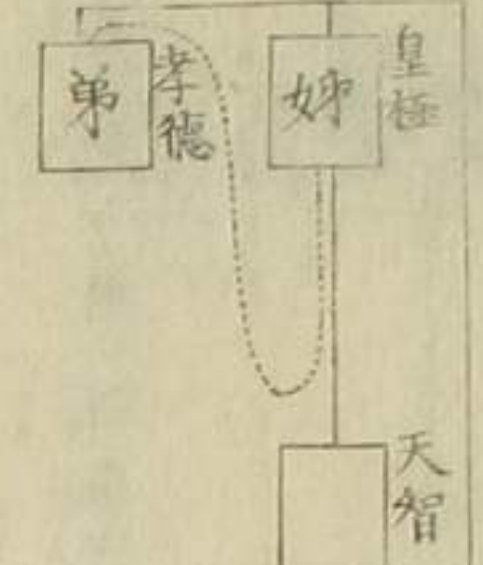
重祚齊明天皇
舒明天皇ノ皇后ニシテ天



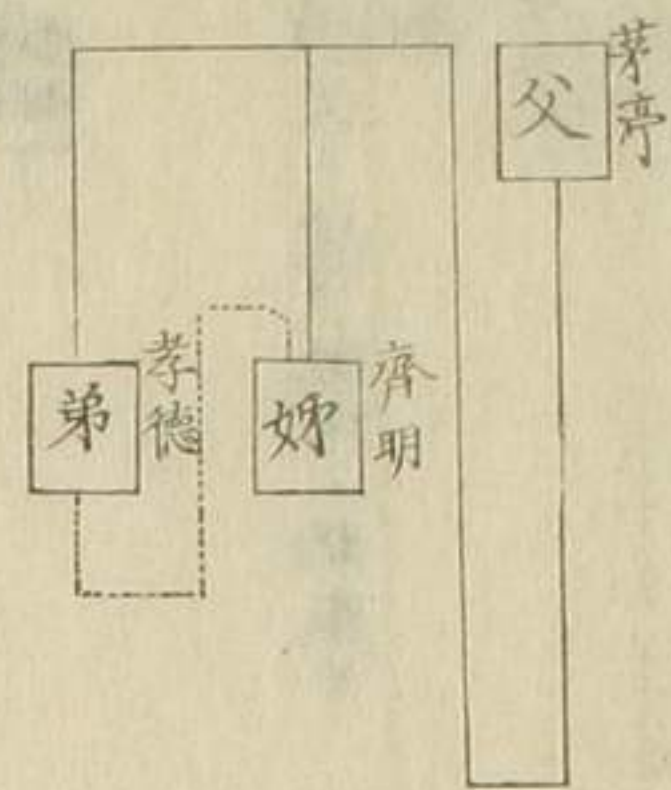
○姉ノ後ヲ弟ノ繼承セシ例

茅渟 父

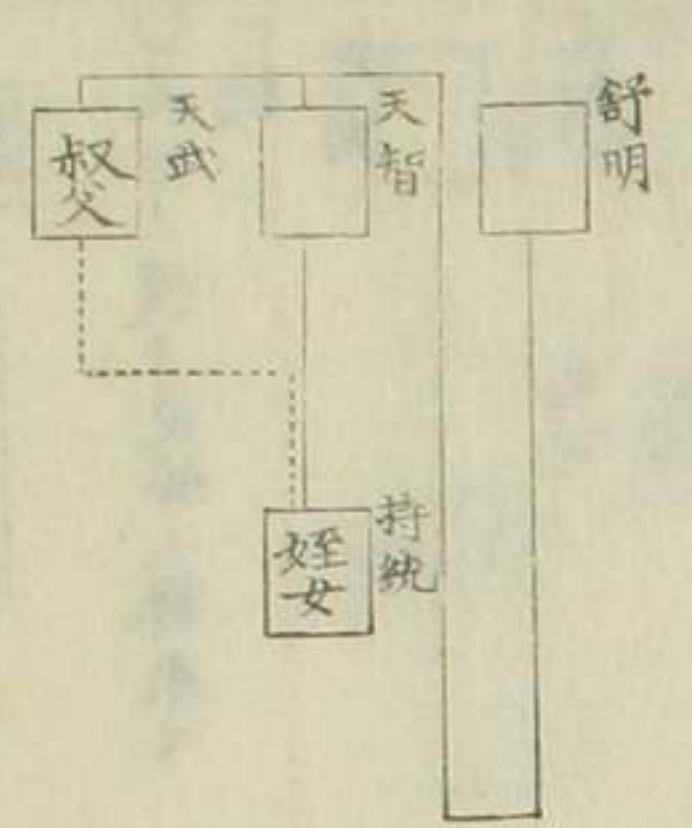
皇位繼承篇 卷之十



○弟ノ後ヲ姪ノ繼承セシ例



○姪ノ後ヲ叔父ノ繼承セシ例



○叔父ノ後ヲ姪女ノ繼承セシ例

○祖母ノ後ヲ嫡孫ノ繼承セシ例

皇位繼承條 卷之十

第三十代 孝德天皇

皇崩ジテ皇子尚幼シ、故ヲ以テ天
 皇位ヲ繼承セシナラシメ、
 天智天皇ノ時、天智天皇
 崩、皇子天智天皇即位、
 天智天皇ノ時、天智天皇
 崩、皇子天智天皇即位、
 天智天皇ノ時、天智天皇
 崩、皇子天智天皇即位、

有間皇子

父孝德天皇崩ジテ後皇子叛シテ
 誅セラレ

古人大兄皇子

皇子ト中大兄皇子トハ共ニ日
 嗣皇子トナリ、父舒明天
 宜子ク時位ヲ立テ、故ク、
 皇子ノ時、位ヲ立テ、故ク、
 皇子ノ時、位ヲ立テ、故ク、
 皇子ノ時、位ヲ立テ、故ク、
 皇子ノ時、位ヲ立テ、故ク、

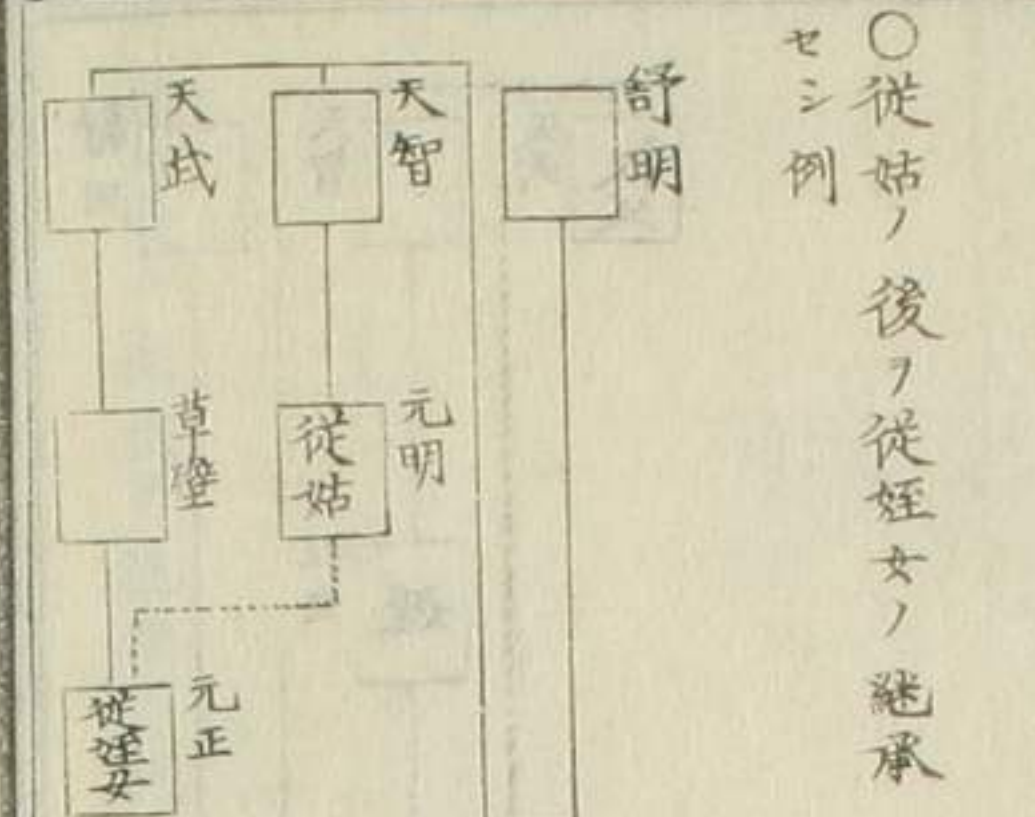
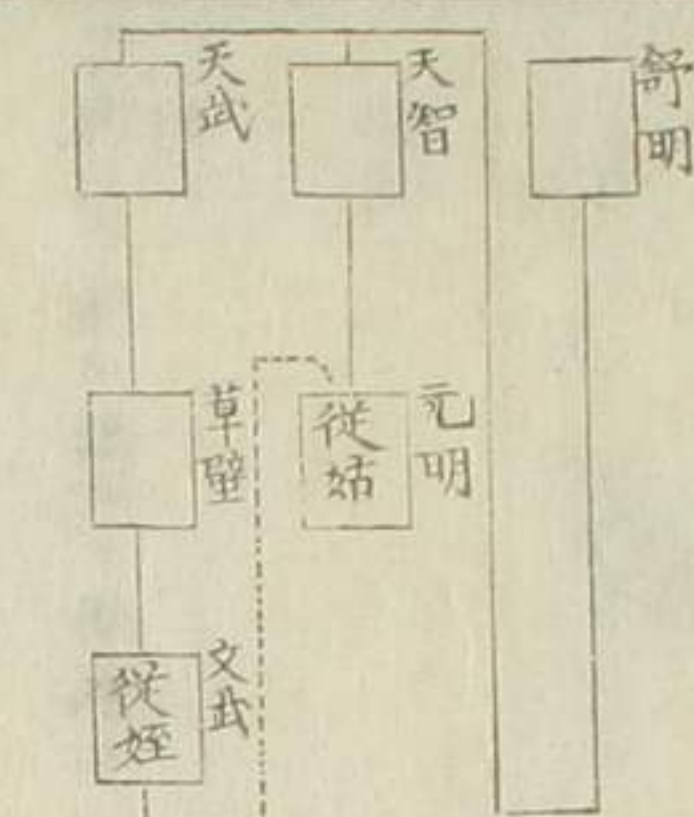
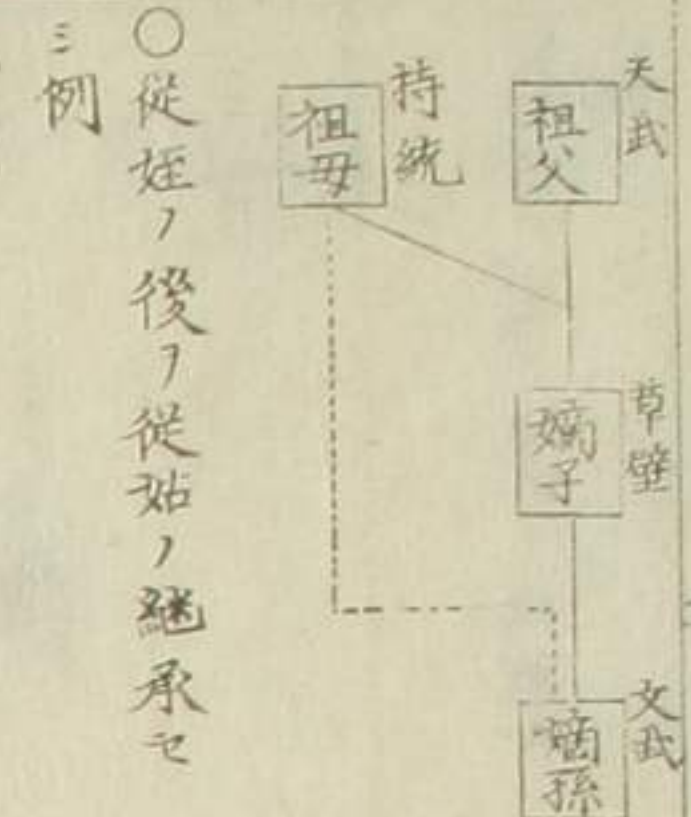
第三十八代 天智天皇

第四代 天武天皇

父舒明天皇崩、太子天智天皇即位、
 舒明天皇崩、太子天智天皇即位、
 舒明天皇崩、太子天智天皇即位、
 舒明天皇崩、太子天智天皇即位、
 舒明天皇崩、太子天智天皇即位、
 舒明天皇崩、太子天智天皇即位、
 舒明天皇崩、太子天智天皇即位、
 舒明天皇崩、太子天智天皇即位、
 舒明天皇崩、太子天智天皇即位、
 舒明天皇崩、太子天智天皇即位、

第四十代 持統天皇

天智天皇崩、皇太子天智天皇即位、
 天智天皇崩、皇太子天智天皇即位、
 天智天皇崩、皇太子天智天皇即位、
 天智天皇崩、皇太子天智天皇即位、
 天智天皇崩、皇太子天智天皇即位、
 天智天皇崩、皇太子天智天皇即位、
 天智天皇崩、皇太子天智天皇即位、
 天智天皇崩、皇太子天智天皇即位、
 天智天皇崩、皇太子天智天皇即位、
 天智天皇崩、皇太子天智天皇即位、



天皇ハ叔父天武天皇ノ皇位ヲ継承ス
長セバ故ヲ以テ天皇皇位ヲ継承ス
天武天皇ハ叔父天武天皇ノ皇位ヲ継承ス
長セバ故ヲ以テ天皇皇位ヲ継承ス

天武天皇ハ叔父天武天皇ノ皇位ヲ継承ス
長セバ故ヲ以テ天皇皇位ヲ継承ス
天武天皇ハ叔父天武天皇ノ皇位ヲ継承ス
長セバ故ヲ以テ天皇皇位ヲ継承ス

天武天皇ハ叔父天武天皇ノ皇位ヲ継承ス
長セバ故ヲ以テ天皇皇位ヲ継承ス
天武天皇ハ叔父天武天皇ノ皇位ヲ継承ス
長セバ故ヲ以テ天皇皇位ヲ継承ス

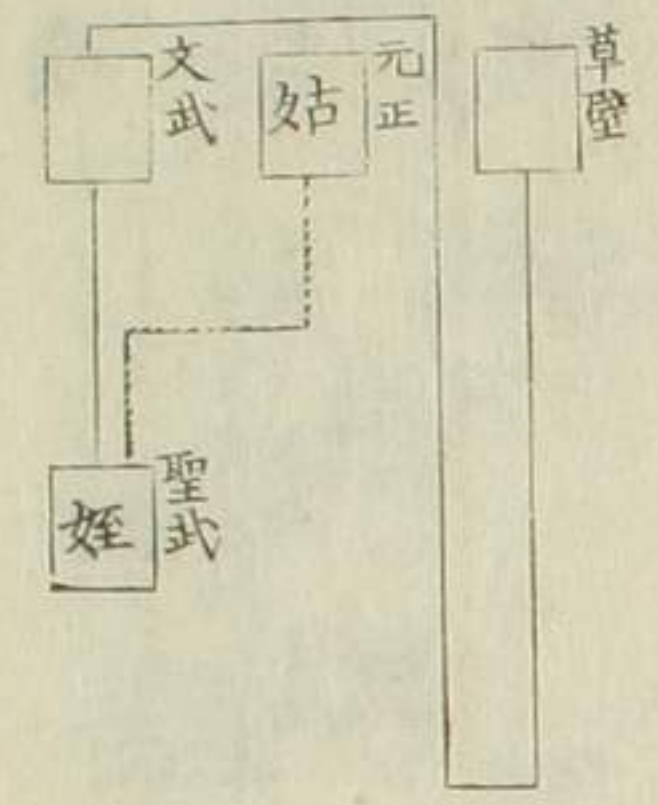
新田部親王

皇子ノ兄草壁皇子薨シテ後皇太子ノ立ツヲ持統天皇ノ中ニ薨

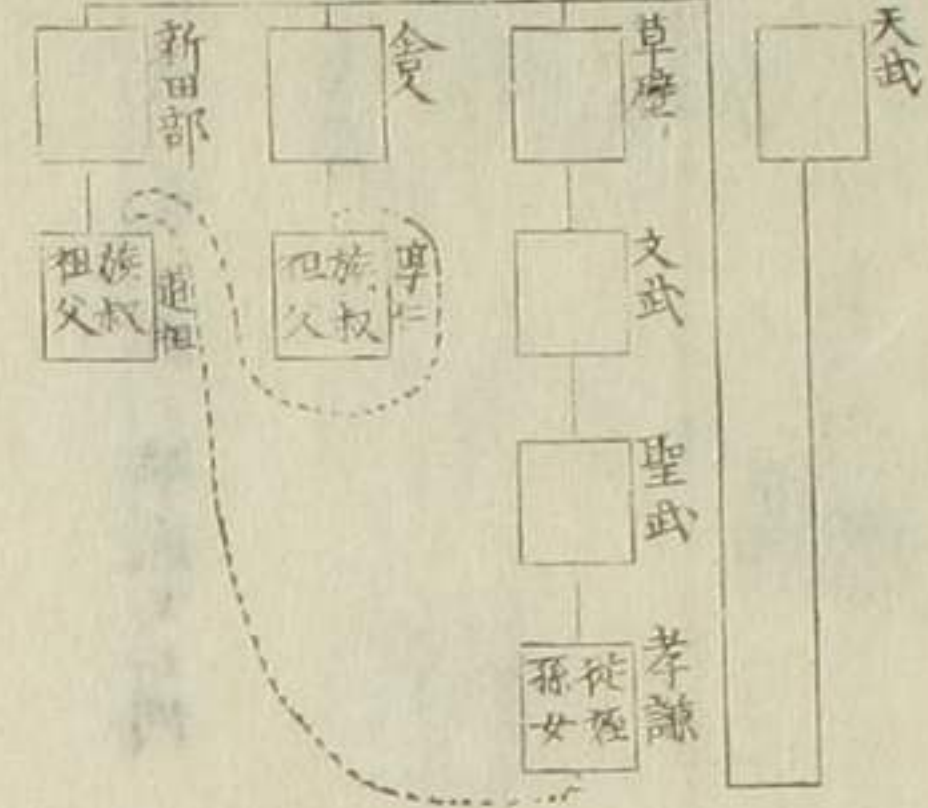
高市皇子

皇子ノ父草壁皇子薨シテ後皇太子ノ立ツヲ持統天皇ノ中ニ薨

〇姑ノ後ヲ姪ノ繼承セシ例



○從姪孫女ノ後ヲ族叔祖父ノ繼承セシ例



○族叔祖父ノ後ヲ從姪孫女ノ繼承セシ例



聖武天皇

孝謙天皇

天皇ノ父文武天皇崩スニ天皇時ニ...

天皇ノ父文武天皇崩スニ天皇時ニ... 孝謙天皇ノ即位ニ...

淳仁天皇

道祖王

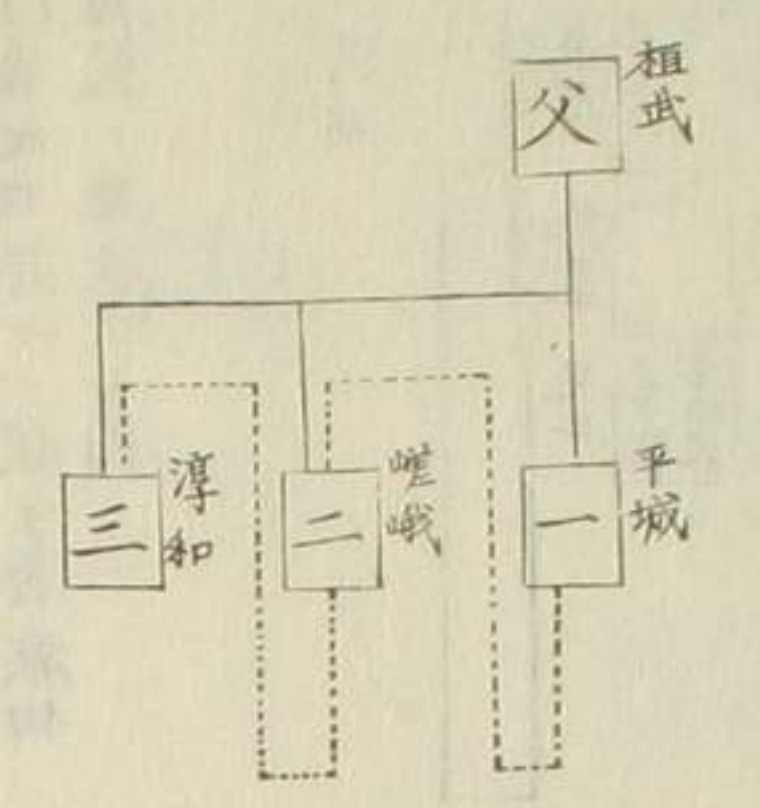
光仁天皇

桓武天皇

淳仁天皇ノ即位ニ... 道祖王ノ即位ニ...

光仁天皇ノ即位ニ... 桓武天皇ノ即位ニ...

〇兄ノ後ヲ弟ノ繼承セシ例



早良親王

親王ハ父光仁天皇ノ太子詔ニ依テ立
テ兄桓武天皇ノ皇太子ノ事

平城天皇

親王ハ叔父嵯峨天皇ノ事ニ依テ太子ト
ナレルテ僧トナル真如親王即是ナ

高岳親王

親王ハ叔父嵯峨天皇ノ事ニ依テ太子ト
ナレルテ僧トナル真如親王即是ナ

嵯峨天皇

天皇ハ平城天皇ノ讓ヲ受テ久故
ク皇子トシテ高岳親王ヲ立テ皇

淳和天皇

弟淳和天皇ニ親王ヲ傳シ皇位ヲ
譲ラセテ皇太子トシテ皇太子ト

子ト為ス兄ノ子ヲ以テ皇太子ト
為ス禮讓ヲ貴ブナリ

恒貞親王

親王ハ從兄弟仁明天皇ノ皇太子
ト為ル事故アリテ廢セララル

仁明天皇

天皇ハ叔父淳和天皇ノ讓ヲ受ケ
テ皇位ヲ承ス故ニ皇子ヲ以テ皇

文德天皇

天皇ハ叔父淳和天皇ノ讓ヲ受ケ
テ皇位ヲ承ス故ニ皇子ヲ以テ皇

清和天皇

天皇ハ叔父淳和天皇ノ讓ヲ受ケ
テ皇位ヲ承ス故ニ皇子ヲ以テ皇

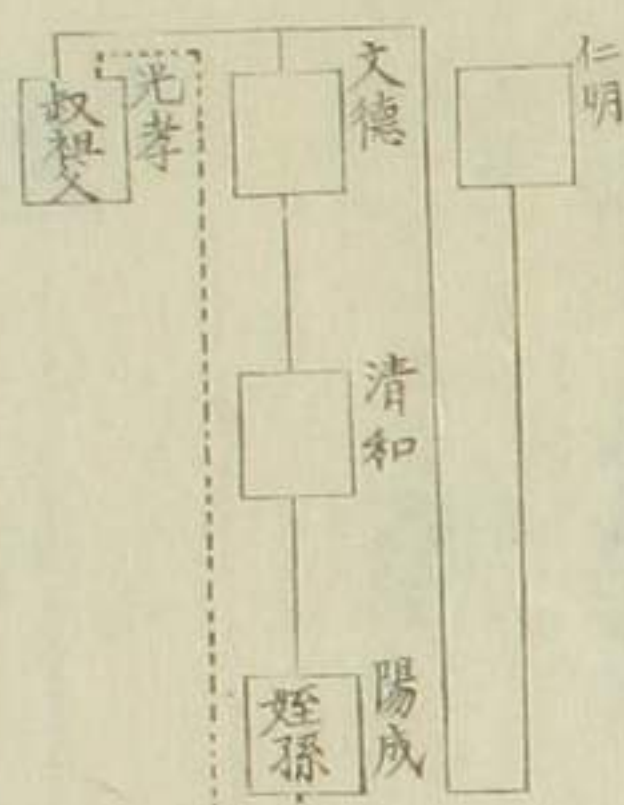
陽成天皇

天皇ハ叔父淳和天皇ノ讓ヲ受ケ
テ皇位ヲ承ス故ニ皇子ヲ以テ皇

光孝天皇

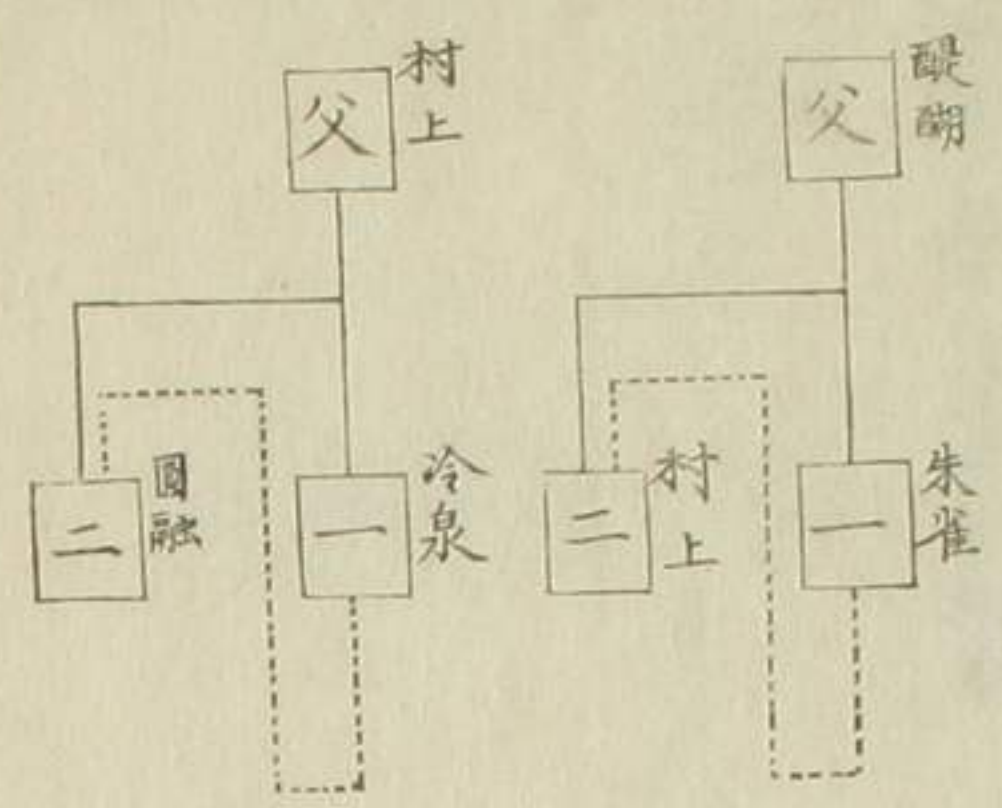
天皇ハ叔父淳和天皇ノ讓ヲ受ケ
テ皇位ヲ承ス故ニ皇子ヲ以テ皇

〇姪孫ノ後ヲ叔祖父ノ繼承
セシ例

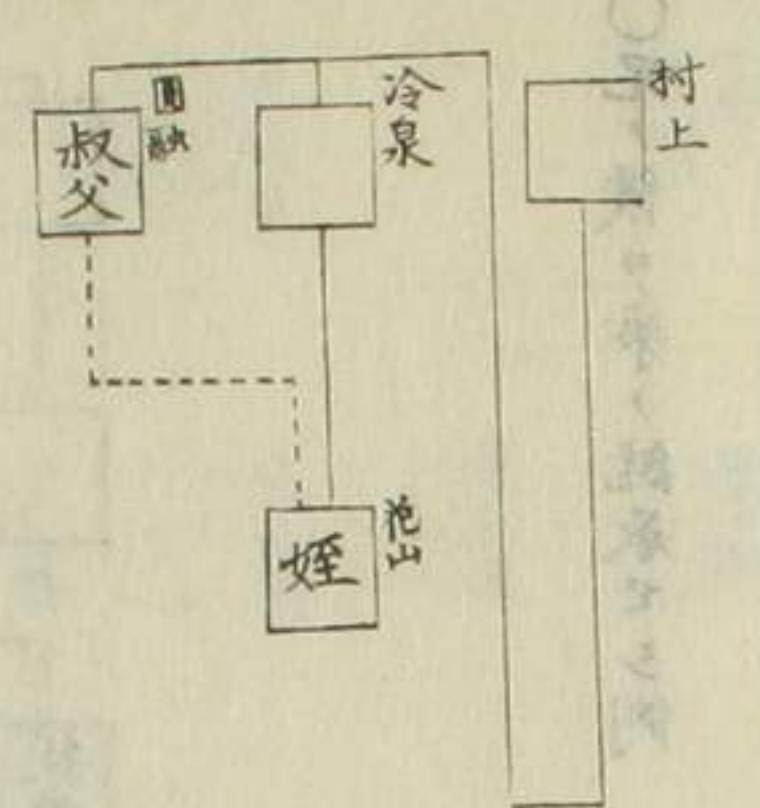


皇位繼承教書 卷之十

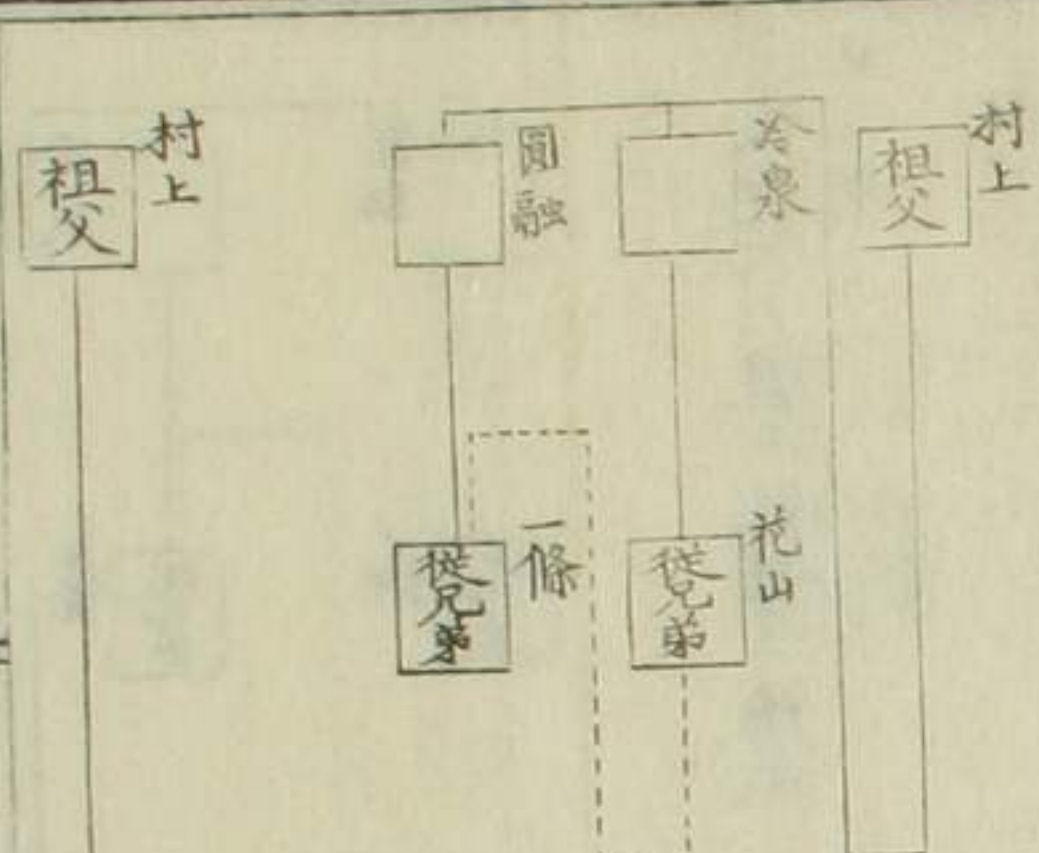
〇兄ノ後ヲ弟ノ繼承セシ例



〇叔父ノ後ヲ姪ノ繼承セシ例



〇從兄弟ノ後ヲ從兄弟ノ繼承セシ例



姪孫陽成天皇喜怒常ナラズ群臣
 因テ天皇ヲ勅進ス天皇乃皇位ヲ
 繼承ス

第百九代
 宇多天皇

第百八代
 醍醐天皇

保明親王

親王ハ立テ皇太子ト為ル父醍醐
 天皇在位ノ中ニ薨ズ

慶頼王

父保明親王薨ズ王立テ皇太子ト
 為ル王亦祖父醍醐天皇在位ノ中

第百七代
 朱雀天皇

父醍醐天皇皇位ヲ保明親王ニ傳
 ハント欲ス保明親王薨ズ因テ孫

第百六代
 村上天皇

慶頼王ニ傳ハント欲ス亦薨ズ故
 以テ天皇皇位ヲ傳フ天皇子無シ
 繼承ス

兄朱雀天皇皇位ヲ傳フ天皇子無シ
 因テ皇

第百五代
 冷泉天皇

天皇子ハ兄冷泉天皇ノ讓ヲ受ケテ
 皇位ヲ繼承ス冷泉天皇皇位ヲ傳

第百四代
 圓融天皇

天皇子ハ叔父圓融天皇ノ讓ヲ受ケ
 テ皇位ヲ繼承ス圓融天皇皇位ヲ傳

第百三代
 花山天皇

天皇子ハ叔父圓融天皇ノ讓ヲ受ケ
 テ皇位ヲ繼承ス圓融天皇皇位ヲ傳

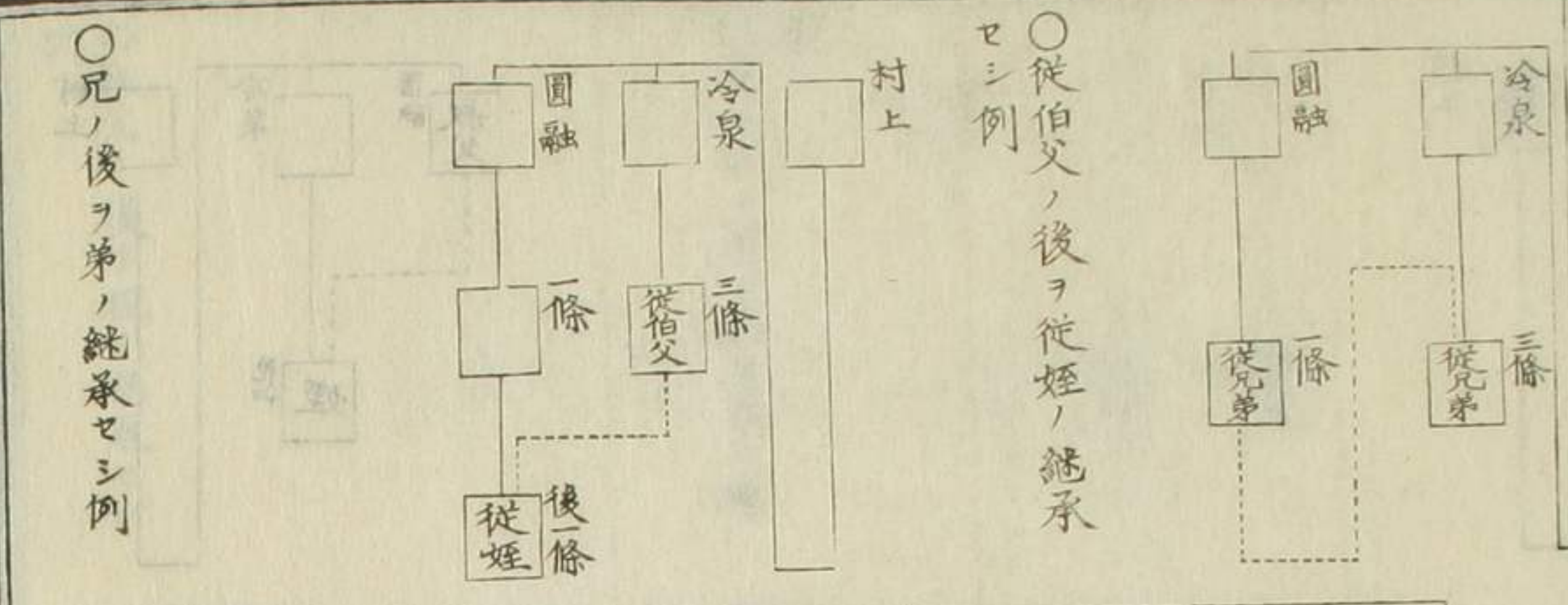
天皇子ハ叔父圓融天皇ノ讓ヲ受ケ
 テ皇位ヲ繼承ス圓融天皇皇位ヲ傳

第百二代
 一條天皇

天皇子ハ叔父圓融天皇ノ讓ヲ受ケ
 テ皇位ヲ繼承ス圓融天皇皇位ヲ傳

天皇子ハ叔父圓融天皇ノ讓ヲ受ケ
 テ皇位ヲ繼承ス圓融天皇皇位ヲ傳

皇立繼承篇 卷之十一



皇太子ト為ス、花山天皇遜位ノ後

第六十七代 三條天皇

天皇ノ從兄弟一條天皇ハ花山天皇ノ弟

第六十八代 一條天皇

天皇ノ從伯父三條天皇ハ意ヲ用テ三條天皇ト為ス、但シ、天皇ハ皇子ナシ

敦明親王

親王ノ再從兄弟一條天皇ハ三條天皇ノ從親トシテ、後一條天皇ト為ス、但シ、天皇ハ皇子ナシ

第六十九代 後朱雀天皇

天皇ハ兄一條天皇ノ讓ヲ受ケ

第七十代 後冷泉天皇

天皇皇子無シ、故ヲ以テ皇位ヲ弟

第七十一代 後三條天皇

天皇ハ兄一條天皇ノ讓ヲ受ケ

第七十二代 白河天皇

親王ハ兄白河天皇ノ皇太子ト為ス

第七十三代 堀河天皇

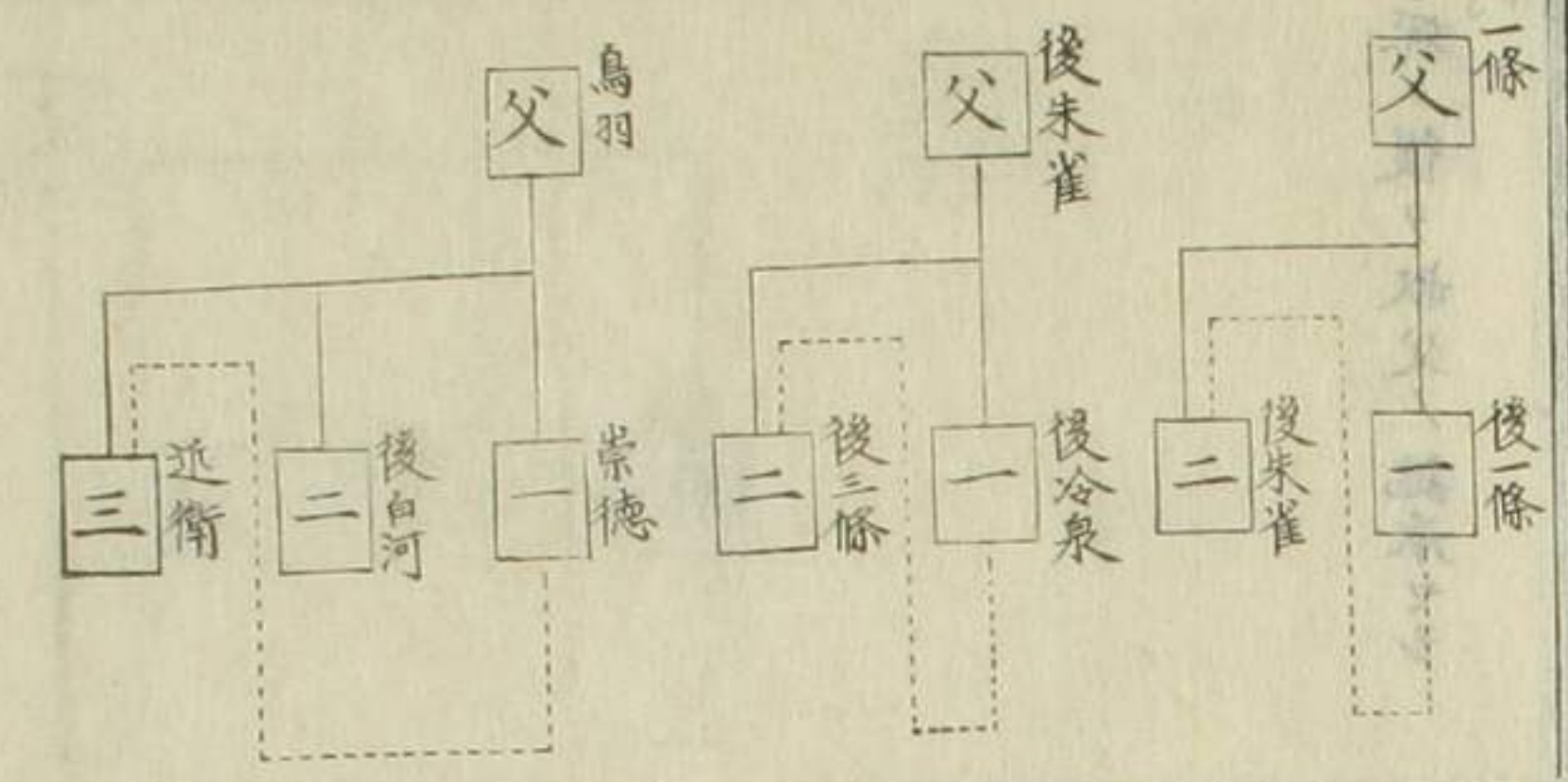
親王ハ兄白河天皇ノ皇太子ト為ス

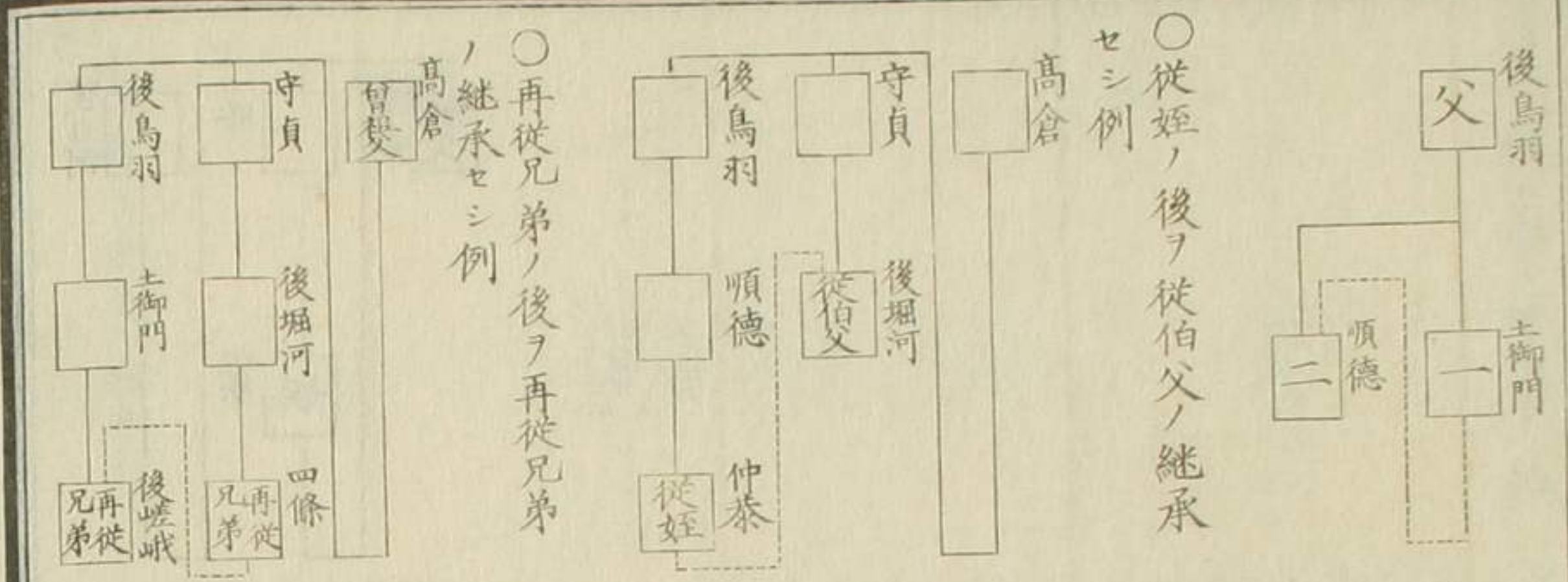
第七十四代 鳥羽天皇

天皇ハ皇太子ト為ス、但シ、天皇ハ皇子ナシ

第七十五代 崇徳天皇

天皇ハ皇太子ト為ス、但シ、天皇ハ皇子ナシ





第八十三代
土御門天皇
天皇ハ父後鳥羽天皇ノ意ニ從テ皇位ヲ弟順德天皇ニ傳フ

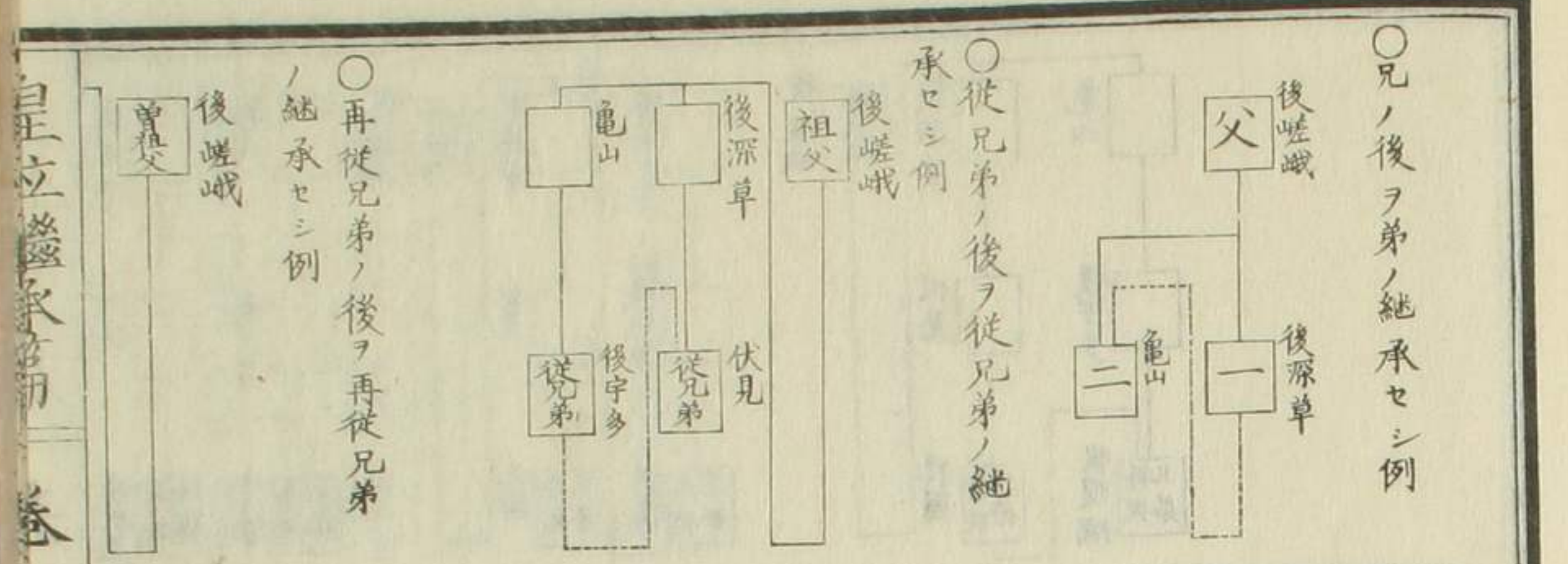
第八十四代
順德天皇
天皇ハ父ノ意ニ從テ兄土御門天皇ノ讓ヲ受ク

第八十五代
仲恭天皇
承久ノ亂アリ天皇因テ遜位ス、皇子ナシ

第八十六代
後堀河天皇
天皇ハ北條義時ノ勸進ニ從テ皇位ヲ繼承ス

第八十七代
四條天皇
天皇年十二歳ニシテ崩ズ子無シ

第八十八代
後嵯峨天皇
天皇ノ再從兄弟四條天皇崩ズ天皇北條泰時ノ勸進ニ從テ皇位ヲ繼承ス



第九十代
後深草天皇
天皇ハ父後嵯峨天皇ノ意ニ從テ皇位ヲ弟龜山天皇ニ傳フ

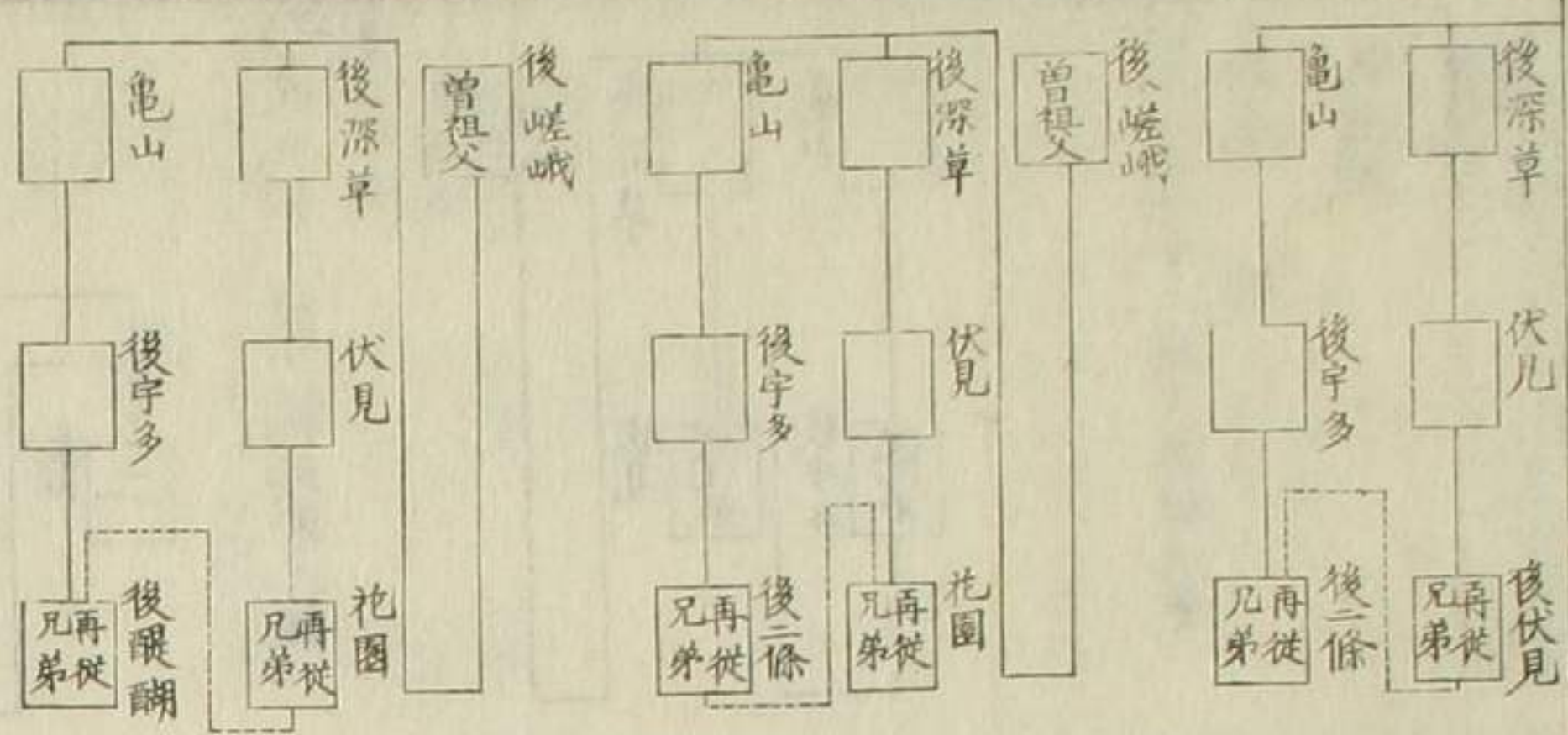
第九十一代
龜山天皇
天皇ハ父後嵯峨天皇ノ意ニ從テ皇位ヲ弟後深草天皇ノ讓ヲ受ク而シテ再從兄弟四條天皇ノ勸進ニ從テ皇位ヲ繼承ス

第九十二代
後宇多天皇
天皇ハ北條貞時ノ奏スル所ニ從テ皇位ヲ弟伏見天皇ニ傳フ

第九十三代
伏見天皇
天皇ハ北條貞時ノ奏スル所ニ從テ皇位ヲ弟後宇多天皇ニ傳フ

第九十四代
後伏見天皇
天皇ハ北條貞時ノ奏スル所ニ從テ皇位ヲ再從兄弟二條天皇ニ傳フ

皇立... 卷之十一



第九十四代 傳フ
後二條天皇
天皇ハ北條貞時ノ奏スル所ニ從
テ再從凡弟後伏見天皇ノ讓ヲ受
ケ皇位ヲ繼承ス

第九十五代
花園天皇
天皇ハ北條貞時ノ奏スル所ニ從
テ再從凡弟後二條天皇ノ皇太子
トナリ遂ニ皇位ヲ繼承ス

第九十六代
後醍醐天皇
天皇ハ北條高時ノ奏スル所ニ從
テ再從兄弟花園天皇ノ讓ヲ受ケ
皇位ヲ繼承ス

第九十七代
邦良親王
親王ハ北條高時ノ奏スル所ニ從
テ叔父後醍醐天皇ノ中ニ薨トナ
ル後醍醐天皇ノ中ニ薨トナ
後村上天皇

第九十八代
後龜山天皇
天皇事故アリテ皇位ヲ後小松天
皇ニ傳フ

良泰親王
親王立テ皇太子トナル事故アリ
テ皇位ヲ繼承セズ

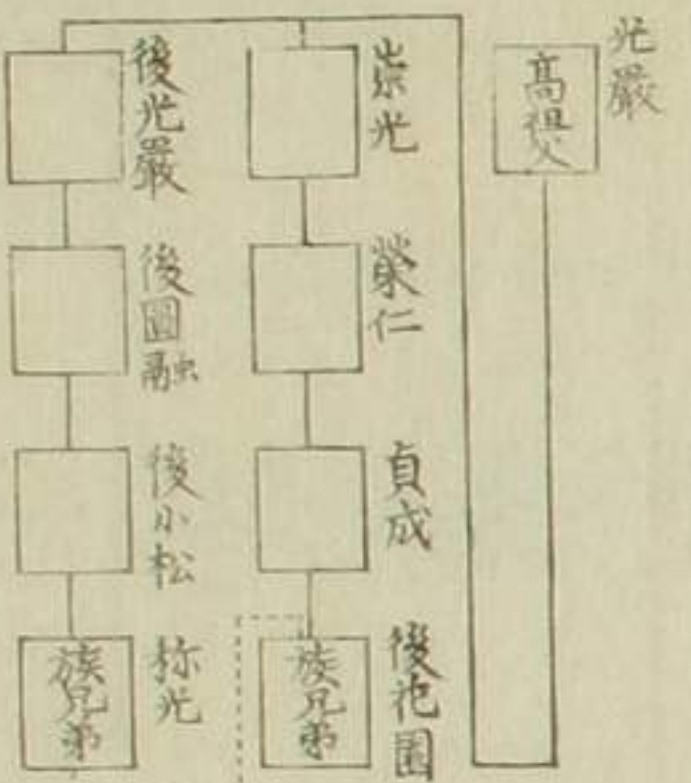
第九十九代
崇光天皇
位不正
崇光天皇
位不正
後光嚴天皇
位不正
後圓融天皇

後小松天皇
天皇事故アリテ後嵯峨天皇五世
ノ孫後龜山天皇ハ後嵯峨天皇七
世ノ孫トナリ

稱光天皇
天皇皇子無シ

崇光天皇子
榮仁親王
貞成親王

○族兄弟ノ後ヲ族兄弟ノ繼
承セシ例



第百代 後花園天皇
 天皇ノ族兄弟稱光天皇崩ス皇子
 無シ天皇因テ皇位ヲ繼承ス

第百代 後土御門天皇

第百代 後柏原天皇

第百代 後奈良天皇

第百代 正親町天皇

誠仁親王

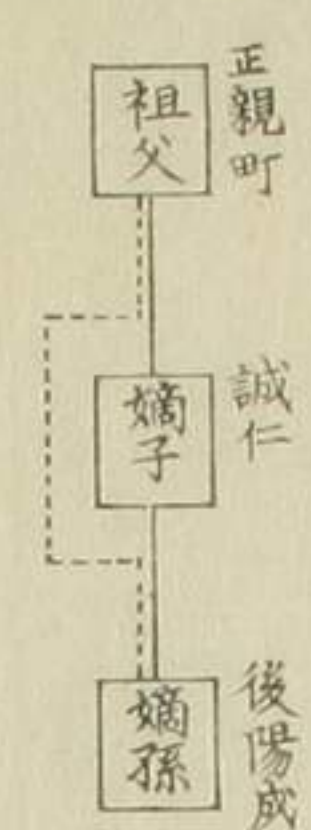
親王ハ父正親町天皇在位ノ中ニ
 薨ズ故ニ皇位ヲ繼承セズ

第百代 後陽成天皇

天皇ハ父誠仁親王薨ゼシヲ以テ
 ケノ故ニ皇位ヲ繼承ス嫡孫承祖ナリ

第百代 後水尾天皇

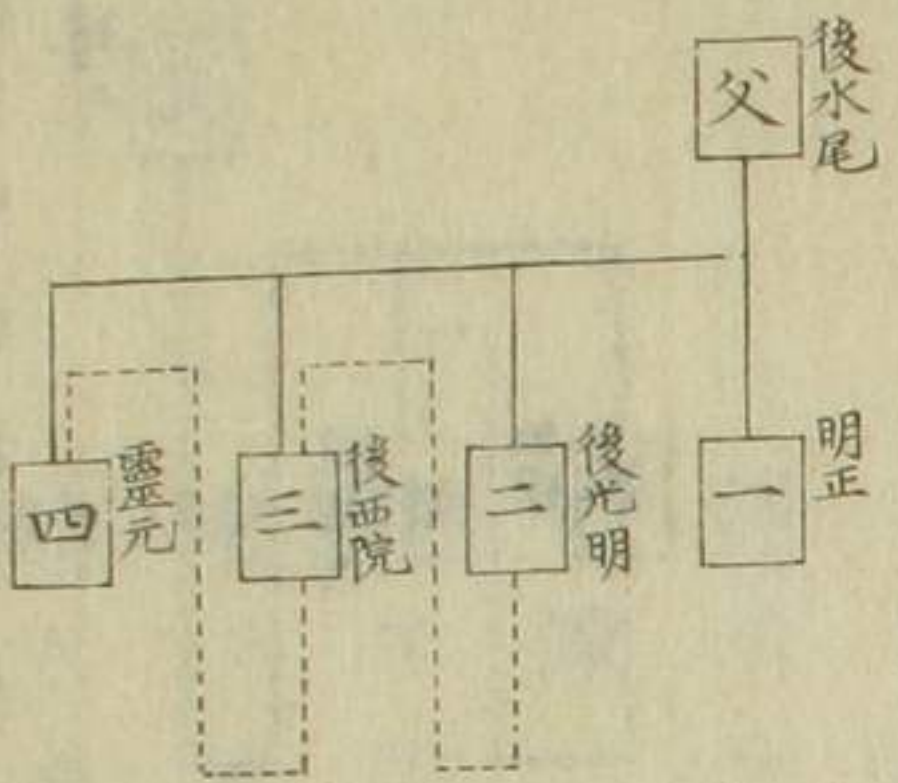
天皇萬機ニ倦ミテ皇位ヲ讓ラン
 ト欲ス皇子アリ先ダチテ薨ズ故



〇祖父ノ後ヲ嫡孫ノ繼承セシ例



〇姉ノ後ヲ弟ノ繼承セシ例



〇兄ノ後ヲ弟ノ繼承セシ例

第百代 明正天皇
 父後水尾天皇皇子ノ薨ゼシヲ以テ

第百代 後光明天皇
 天皇ハ父後水尾天皇讓位ノ後生

第百代 後西院天皇
 天皇崩ス皇子無シ

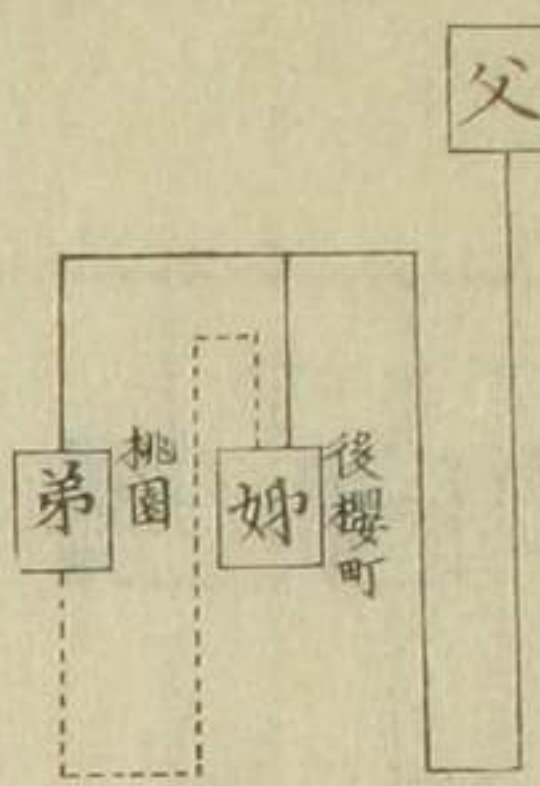
第百代 靈元天皇
 天皇ノ兄後光明天皇崩シテ皇子

第百代 東山天皇
 天皇ハ兄後西院天皇ノ讓ヲ受ケ

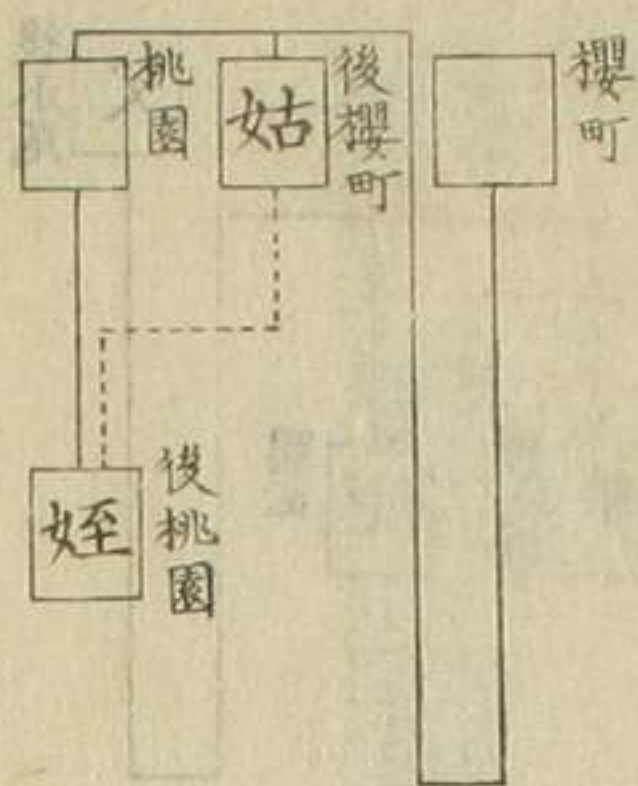
第百代 中御門天皇
 天皇ハ兄後西院天皇ノ讓ヲ受ケ

皇位繼承篇 卷之十

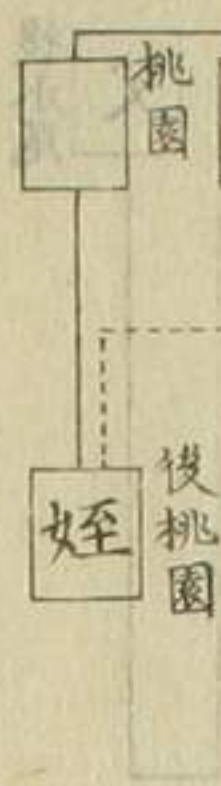
○弟ノ後ヲ母ノ繼承セシ例



○姑ノ後ヲ姪ノ繼承セシ例



○再從姪ノ後ヲ族叔父ノ繼承セシ例



第百廿六代 櫻町天皇

第百廿七代 後櫻町天皇

天皇ノ弟 桃園天皇崩シテ皇子年未ダ長ゼズ、天皇群臣ノ勸進ニ從テ皇位ヲ繼承シ、以テ桃園天皇ノ皇子ノ長ナルヲ蒞ツ

第百廿八代 桃園天皇

天皇ハ父 櫻町天皇ノ讓ヲ受ケテ皇位ヲ繼承ス、天皇崩ズ時ニ皇子英仁親王ニテ即年未ダ長ゼズ

第百廿九代 後桃園天皇

天皇ハ姑 後櫻町天皇ノ讓ヲ受ケテ皇位ヲ繼承ス、天皇崩ズ皇子無シ

第百三十代 直仁親王

典仁親王

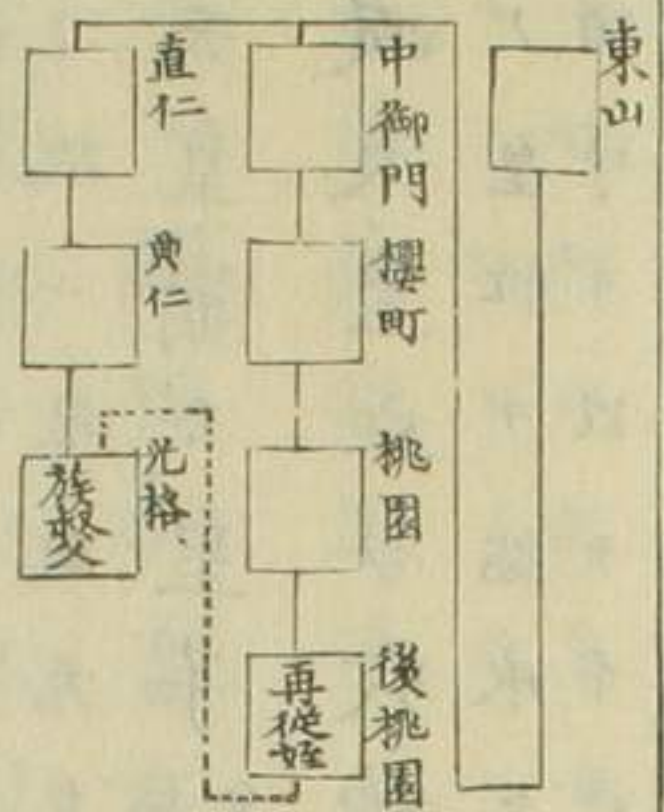
第百三十一代 光格天皇

天皇ハ再從姪 後桃園天皇ノ遺詔ニ從テ皇位ヲ繼承ス

第百三十二代 仁孝天皇

第百三十三代 孝明天皇

第百三十四代 今上



女主ノ皇位ヲ繼承セシ大意

皇位ノ繼承ハ男子コレヲ承ク、是恒典ナリ、女子ノコレヲ承クルハ時ニ事故アリテ已ムコトヲ得ザルニ出デ、而シテ必、蒞ツコトアルナリ、其ノ蒞ツコトアリトイフハ何ゾ、其ノ立ツベキ皇子アリト雖ヘドモ、年尚幼ケレバ其ノ長マルヲ蒞ツト、皇子年長スト雖ヘドモ、事故アリテ其ノ時ノ至ルヲ蒞ツトナリ、故ニ今其ノ大意ヲ略記シテ以テ捷覽ニ備フ

推古天皇 皇極天皇 持統天皇 元明天皇

元正天皇 孝謙天皇 明正天皇 後櫻町天皇

本邦ニ於テ皇女女王ノ皇位ヲ繼承セシコトハ額田部皇女

ニ始マル額田部皇女ハ欽明天皇ノ皇女ニシテ箭田珠勝大

兄皇子敏達天皇用明天皇ノ妹穴穗部皇子崇峻天皇ノ姊ナ

リ箭田珠勝大兄皇子ハ欽明天皇ノ在位ノ中ニ薨ズ敏達天

皇因テ皇位ヲ繼承ス敏達天皇崩ズ皇子^{大押坂}崇峻^弟ノ

テ父ノ後ヲ嗣ガコト能ハズ用明天皇因テ代リ立ツ^{〇本邦}

世ニ至テ皇太子年未長セズトイヘドモ群臣勸進シテ之ヲ

立テ大臣ノ中一人萬機ヲ攝スルノ典アリ^{〇古ハ然ラズ萬}

機ヲ親決スルコト能ハザレバ皇位ヲ繼承セザリ^{ナリ}

リ故ニ敏達天皇崩シテ用明天皇立^{〇亦當然ノ理ナリ}用明

天皇崩ズ皇子^皇年幼クシテ父ノ後ヲ嗣ガコト能ハズ崇

峻天皇立ツ穴穗部皇子ハ故アリテ立タズ^{〇用明天皇崩ジ}

順ノ皇位ヲ繼承セザリ^シ故ハ穴穗部皇太子立ツベシ^{穴穗部皇子}

ハ妙額田部皇女ノ意ニ適セズ群臣モ亦素行ノ修ラザ崇峻

天皇蘇我馬子ニ弒セラレ崇峻天皇皇子アリ群臣之ヲ奉戴

セズ額田部皇女ヲ勸進ス皇女因テ皇位ヲ繼承ス是ヲ推古

天皇トイフ天皇時ノ至ルヲ俟テ寶位ヲ厩戸皇子ニ傳ヘン

ト欲スルコトハ皇子ヲ立テ皇太子ト為スニテ瞭然タリ

〇崇峻天皇崩ズ皇子^皇即位ニ即ク是ノ時ニ當テ敏達天皇ノ勸進ス額田部皇

女送^皇皇子^皇位^皇即^皇久^皇是^皇ノ^皇時^皇ニ^皇當^皇テ^皇敏^皇達^皇天^皇皇^皇子^皇ノ^皇勸^皇進^皇ス^皇額^皇田^皇部^皇皇^皇子^皇ノ^皇推^皇古^皇

大兄皇子^皇位^皇即^皇久^皇是^皇ノ^皇時^皇ニ^皇當^皇テ^皇敏^皇達^皇天^皇皇^皇子^皇ノ^皇勸^皇進^皇ス^皇額^皇田^皇部^皇皇^皇子^皇ノ^皇推^皇古^皇

嫡子^皇位^皇即^皇久^皇是^皇ノ^皇時^皇ニ^皇當^皇テ^皇敏^皇達^皇天^皇皇^皇子^皇ノ^皇勸^皇進^皇ス^皇額^皇田^皇部^皇皇^皇子^皇ノ^皇推^皇古^皇

傳^皇子^皇位^皇即^皇久^皇是^皇ノ^皇時^皇ニ^皇當^皇テ^皇敏^皇達^皇天^皇皇^皇子^皇ノ^皇勸^皇進^皇ス^皇額^皇田^皇部^皇皇^皇子^皇ノ^皇推^皇古^皇

ク^皇子^皇位^皇即^皇久^皇是^皇ノ^皇時^皇ニ^皇當^皇テ^皇敏^皇達^皇天^皇皇^皇子^皇ノ^皇勸^皇進^皇ス^皇額^皇田^皇部^皇皇^皇子^皇ノ^皇推^皇古^皇

ナ^皇子^皇位^皇即^皇久^皇是^皇ノ^皇時^皇ニ^皇當^皇テ^皇敏^皇達^皇天^皇皇^皇子^皇ノ^皇勸^皇進^皇ス^皇額^皇田^皇部^皇皇^皇子^皇ノ^皇推^皇古^皇

皇^皇子^皇位^皇即^皇久^皇是^皇ノ^皇時^皇ニ^皇當^皇テ^皇敏^皇達^皇天^皇皇^皇子^皇ノ^皇勸^皇進^皇ス^皇額^皇田^皇部^皇皇^皇子^皇ノ^皇推^皇古^皇

其^皇子^皇位^皇即^皇久^皇是^皇ノ^皇時^皇ニ^皇當^皇テ^皇敏^皇達^皇天^皇皇^皇子^皇ノ^皇勸^皇進^皇ス^皇額^皇田^皇部^皇皇^皇子^皇ノ^皇推^皇古^皇

ノ^皇子^皇位^皇即^皇久^皇是^皇ノ^皇時^皇ニ^皇當^皇テ^皇敏^皇達^皇天^皇皇^皇子^皇ノ^皇勸^皇進^皇ス^皇額^皇田^皇部^皇皇^皇子^皇ノ^皇推^皇古^皇

父^皇子^皇位^皇即^皇久^皇是^皇ノ^皇時^皇ニ^皇當^皇テ^皇敏^皇達^皇天^皇皇^皇子^皇ノ^皇勸^皇進^皇ス^皇額^皇田^皇部^皇皇^皇子^皇ノ^皇推^皇古^皇

ノ^皇子^皇位^皇即^皇久^皇是^皇ノ^皇時^皇ニ^皇當^皇テ^皇敏^皇達^皇天^皇皇^皇子^皇ノ^皇勸^皇進^皇ス^皇額^皇田^皇部^皇皇^皇子^皇ノ^皇推^皇古^皇

父^皇子^皇位^皇即^皇久^皇是^皇ノ^皇時^皇ニ^皇當^皇テ^皇敏^皇達^皇天^皇皇^皇子^皇ノ^皇勸^皇進^皇ス^皇額^皇田^皇部^皇皇^皇子^皇ノ^皇推^皇古^皇

德天皇崩_テ皇極天皇再_レ祚ス是ヲ齊明天皇トイフ_〇孝徳天皇
 大兄皇子宜シク立ツベシ_ニ而ルニ皇子ノ立タズシテ母天皇
 重祚スル所以ハ皇子親_レ謙遜シテ母_ニ隨フ_ヲ意ヲ表セシナ
 シ女主再_レ夕_ニ祚ニ登リシコトハ天津日嗣高御座ノ御業ハ
 重事ナリ皇太子中大兄皇子因_テ皇位ニ即カズ母天皇再_レ夕_ニ
 皇位ニ即キシナラン_〇神皇正統記中卷一云久我朝_ノ皇
 極_ノ神皇正統記中卷一云久我朝_ノ皇
 を稱徳と号ス異朝_ヲ替れ_ル是_ヲ天日嗣重_ク重_ク重_ク重_ク重_ク重_ク
 賢の義ささめてよ_ク御代より太子立給ふ_ニ此御時ハ攝政
 子の御事な_レ孝徳の御代より太子立給ふ_ニ此御時ハ攝政
 子給ふ_ト見_ル孝徳の御代より太子立給ふ_ニ此御時ハ攝政
 天_ノ御母ヲ奉_レ戴シ_テ再_レ夕_ニ祚ニ登_リシメ_テ萬機皇極天皇再_レ祚
 ヲ輔翼セ_シコト此_ノ文ニ據_テ見_ルベキナリ皇極天皇再_レ祚
 シ_テ而_シテ後時ノ至_ルヲ埃テ寶位_ヲ中大兄皇子ニ傳_ヘシ
 ト欲_スルコトハ皇子ヲ立_テ皇太子ト為_スニテ瞭然タリ
 鷓野讚良皇女ハ天智天皇ノ皇女ニシテ元明天皇弘文天皇
 ノ姉ナリ立_テ天武天皇ノ皇后ト為_ル天武天皇崩_ズ皇子
 草壁皇子アリ時ニ年廿五歳ナリ立_タス皇子ノ母皇后鷓野

讚良皇女立_ツコレヲ持統天皇トイフ_ニ天皇ノ立_ツヤ抑_ク所以
 アリ_〇此ノ事ハ亦_レ以_テ已ムコトヲ得_ザルニ出_ヅルナリ_〇
 武_ノ天皇崩_ズ皇子草壁皇子_ノ理宜シク立_ツベシ_ニ而ル_ヲ皇_ノ後
 野_ノ讚良皇女立_ツコレヲ持統天皇トイフ_ニ天皇ノ立_ツヤ抑_ク所以
 ル_ニ天武天皇崩_ズ皇子草壁皇子_ノ理宜シク立_ツベシ_ニ而ル_ヲ皇_ノ後
 後_ヲ天武天皇崩_ズ皇子草壁皇子_ノ理宜シク立_ツベシ_ニ而ル_ヲ皇_ノ後
 已_テ立_テ皇位ヲ繼_グ承_シテ_シ望_シル_者ナ_キニ廢_レ子_ノ數人アリ_テ中_ニ父_ノ
 ン_天武_ノ天皇崩_セシ_ニ歲_大津_ノ皇子_ノ反_逆ノ事_{アリ}以_テ見_ルベ_ラ
 キ_ナリ_〇此ノ事ハ亦_レ以_テ已ムコトヲ得_ザルニ出_ヅルナリ_〇
 阿閉皇女ハ天智天皇ノ皇女ニシテ持統天皇ノ妹弘文天皇
 ノ姉ナリ立_テ皇太子草壁皇子ノ妃ト為_リテ文武天皇ヲ
 生_ム持統天皇皇位_ヲ文武天皇ニ傳_ス文武天皇崩_ズ皇子首
 皇子_聖武_ノアリ_時ニ年尚_幼シ_ニ母阿閉皇女立_テ皇位_ヲ繼承_シ
 以_テ首皇子ノ長_スル_ヲ埃_以實_ニ已_ムコトヲ得_ザルナリ_〇
 元明天皇トイフ_〇文武天皇疾_{アリ}其_ノ起_ルベ_カラ_サル_ヲ欲_ス
 ヲ阿閉皇女固_ク辭_ステ_シ皇_ノ崩_ズ阿閉皇女_ノ因_テ長_スル_ヲ埃_以實_ニ已_ムコトヲ得_ザルナリ_〇
 シ_テ立_テ皇位_ヲ繼承_シ以_テ孫首皇子ノ長_スル_ヲ埃_以實_ニ已_ムコトヲ得_ザルナリ_〇

得ハ己ムコトヲ
 氷高内親王ハ天武天皇ノ孫ニシテ草壁太子ノ子文武天皇
 ノ姊ナリ文武天皇崩ズ皇子首皇子年尚幼シ元明天皇乃立
 夫以テ首皇子ノ長スルヲ埃ツ元明天皇疾アリ萬機ヲ決ス
 ルコト能ハザルニ至テ皇位ヲ首皇子ニ傳ヘント欲ス年未
 長ゼズ故ヲ以テ首皇子ノ姑氷高内親王ニ傳ヘ以テ其ノ姪
 ノ長スルヲ埃タシム氷高内親王立ツ是ヲ元正天皇トイフ
 亦己ムコトヲ得ザルナリ○元正天皇ノ皇位ヲ繼承セシ情
 水鏡等ニ見エタ
 リ就テ見ルベシ
 阿倍内親王ハ聖武天皇ノ皇女ニシテ皇子基ノ姊ナリ聖武
 天皇皇位ヲ皇子ニ傳ヘント欲シ立テ皇太子ト為ス皇太
 子薨ズ聖武天皇因テ己ムコトヲ得ズ阿倍内親王ヲ立テ
 皇太子ト為ス遂ニコレニ皇位ヲ讓ル阿倍内親王立ツ是ヲ

孝謙天皇トイフ孝謙天皇立ツニ及テ天皇道祖王○天武天
 シテ新田部親ヲ立テ皇太子ト為ス○孝謙天皇ハ子無キコ
 王ノ子ナリ
 皇命ヲ道祖王ヲ立テ父聖武天皇ノ意ニ從フナリ聖武天
 皇太子タラシメシナリ皇ノ皇子無キヲ以テ皇位ヲ皇女ニ傳フト雖ヘトモ而レド
 モ其ノ恒典ニ非ラザルヲ以テ乃道祖王ヲ以テ立テ其ノ
 皇太子ト為シ時ノ至ルヲ埃テ之ニ皇位ヲ繼承セシム以テ
 推古天皇以來ノ女主ノ跡ニ倣フナリ○女主ノ跡ニ倣フト
 子ト為シテ孝謙天皇ヲシテ時ノ至ルヲ聖武天皇崩ズ孝謙
 埃テ皇位ヲ傳ヘシメント欲スルナリ
 天皇皇太子道祖王ノ意ニ適セザルヲ以テ之ヲ廢シ代フル
 ニ大炊王ヲ以テシ遂ニ之ニ皇位ヲ讓ル是ヲ淳仁天皇トイ
 フ而シテ後淳仁天皇モ亦孝謙天皇ノ意ニ適セズ之ヲ廢ス
 因テ再祚ス所謂ル稱徳天皇是ナリ天皇ノ再祚スルヤ時ニ
 代リ立ツベキ者無シ亦己ムコトヲ得ザルナリ○孝謙天皇
 初皇太子道

祖王ヲ廢シ後淳仁天皇ヲ廢ス諸王尚アリトイヘドモ立テ皇太子ト為スベキコト是ニ至テ甚難シ其ノ情實推考シテ

興子内親王ハ後水尾天皇ノ皇女ニシテ高仁親王及某皇子

後光明天皇後西院天皇靈元天皇ノ姉ナリ後水尾天皇皇位

ヲ高仁親王ニ傳ヘント欲ス高仁親王薨ズ而シテ皇子某生

ル亦薨ズ天皇因テ皇位ヲ興子内親王ニ讓ル興子内親王立

以是ヲ明正天皇トイフ後水尾天皇ノ皇位ヲ辭セシコトハ

衰老ニ依ルニ非ラズ萬機ニ堪ヘガルナリハ○事ハ卷後水尾

天皇讓位ノ後後光明天皇後西院天皇靈元天皇ヲ生ム後水

尾天皇ノ皇位ヲ讓リシハ後光明天皇以下三天皇ヲ生マガ

リシ前ニシテ實ニ已ムコトヲ得ザリシナリ○高仁親王ハ

月十三日生ル同月廿五日親王宜下アリテ儲君ト為ル同五

年六月十一日薨ズ同年十月六日薨ズ其ノ寛永五年九月廿八

日生ル若宮ト稱ス同年十月六日薨ズ其ノ寛永五年九月廿八

ル男ニ非ラズ天皇因テ意ヲ決シテ皇位ヲ興子内親王ニ讓

コト以テ見ルベキナリ

智子内親王ハ櫻町天皇ノ皇女ニシテ桃園天皇ノ姉ナリ桃

園天皇崩ズ皇子英仁親王後桃園アリ年未長セズ群臣相議

シテ智子内親王ヲ奉戴シ以テ勸進ス内親王因テ皇位ヲ繼

承シ以テ英仁親王ノ長ズルヲ埃以是ヲ後櫻町天皇トイフ

亦已ムコトヲ得ザリシナリ○桃園天皇崩ズ皇子英仁親王

コト能ハズ故ヲ以テ後櫻町天皇立ツ已ム本邦ニ於テ女主

ノ皇位ヲ繼承セシ者推古天皇ヨリ後櫻町天皇ニ至テ總ベ

テ八主ナリ其ノ皇位ヲ繼承スルヤ皆已ムコトヲ得ザルニ

出ヅルナリ

皇位繼承卷十終

皇位繼承篇卷十終



